



平成27年度卒業式を終えて



学生表彰受賞者



第47回つる子どもまつり



国際交流会館竣工式

特集 国際交流会館の開設について 2

国際交流会館の開設について

都留文科大学入学式 4

新生の言葉 社会学科 天野樹音
英文学科 長田真依

学長の式辞

新教員紹介 文大に着任するにあたって 8

初等教育学科 中川佳子 教授
水口 潔 教授
国文学科 野中 潤 准教授
田口麻奈 講師
社会学科 富永貴公 講師

学外研究報告 13

初等教育学科 山森美穂 准教授
社会学科 進藤 兵 教授
比較文化学科 内山史子 准教授

昨年度の就職状況を振り返る 16

キャリア支援センター長 新保祐司 教授

「学生による授業アンケート」の結果から 18

FD委員会委員長 平野耕一 准教授

講演会だより 20

第2回文大名画座（地域交流研究センター・比較文化学会共催）
大学院文学研究科

文大だより 22

卒業式の様子
平成27年度卒業者・終了者数及び平成28年度入学試験状況
学生表彰制度による表彰
成績優秀者表彰式
文部科学省「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」に本学学生が選出
熊本地震に関する学生のボランティア活動
つる子どもまつり開催
都留市ふれあい集会
地域交流研究センター・COC推進機構 新センター移転
フィールド・ミュージアム通信
オープンキャンパス情報
模擬面接試験体験会
市民公開講座 佐野夢加かけっこ教室
国際教育学科開設記念講演会
人事異動・訂正文
編集後記
本 ぶんだい堂

国際交流会館の開設について

都留文科大学創立60周年事業の一つとして、国際交流会館が開設いたしました。国際交流会館は、主に海外から受け入れをしている交換協定に基づく留学生のための宿泊施設ですが、本学学生も一緒に生活することができます。

国際交流会館に入居することで、欧米圏、アジア圏からの協定に基づく留学生と寝食を共にすることや異なる文化に自然に触れることができ、国際感覚を養うことができるでしょう。

優れた国際感覚を養うことで、海外への留学を志す皆さまの第一歩になることを期待しています。



国際的な交流の深まりをめざして

国際交流会館館長（副学長）
新保祐司



この春、都留文科大学に長く待望されていた国際交流会館が完成しました。これまで、海外の大学からの交換留学生は、大学が借り上げた宿舎に入居していましたが、この国際交流会館ができたことにより、今後は、この会館で生活することとなりました。

これを設計するにあたっては、国際交流センター運営委員会の委員の先生方にコンセプトを検討していただきました。それに際しては、他大学の留学生会館などを数か所、実際に見学し、現在の動向も参考にしました。

都留文科大学の国際交流会館は、単なる宿舎ではありません。留学生と本学の学生が生活を通して交流を深める場所です。そのために、部屋は4人で1ユニットとなるものにして、1階にはホールを大きくとり、ここでさまざまなイベントを行います。立地は公園に面した環境のいいところにあり、大学にも近くて便利です。この国際交流会館を本学らしい人間味あふれる空間として運営していきたいと思っています。

国際交流会館施設紹介



多目的ホール

おおむね85㎡(50畳以上)の広さを持ち、ウッドデッキから観水公園を臨み、調理室を併設しております。地域の人を交えた交流の場や、入居者のウェルカムパーティーや送別会、その他様々な催しものが可能です。



囲炉裏スペース

囲炉裏を囲みながら、違う文化で育った友人と語り合うことができます。



ユニットルームの個人スペース

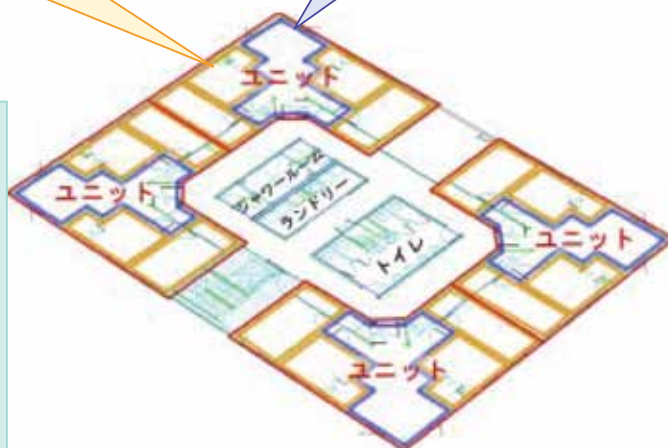


ユニットルームの共用スペース

2階が男性、3・4階が女性の居住フロアになっています。

1フロアは、4人のユニットが4つの計16名が入居可能になっており、1フロアでシャワールーム、ランドリー、トイレを共有します。

それらを共有することで、個室やユニット出て他入居者と顔を合わせるように設計されており、ルームメイト、ハウスメイトと毎日の思い出を沢山重ねていくことができます。





都留文科大学入学式

今年の入学者は841名

4月6日（水）、都の杜うぐいすホールにおいて、平成28年度都留文科大学入学式を開催いたしました。

式典は、おもに学科別に2部制とし、午前10時から行われた第一部では、初等教育学科・社会学科・専攻科・大学院・編入生（初等教育学科・社会学科）、午後1時30分から行われた第二部では、国文学科・英文学科・比較文化学科・編入生（国文学科・英文学科・比較文化学科）を対象に行われました。

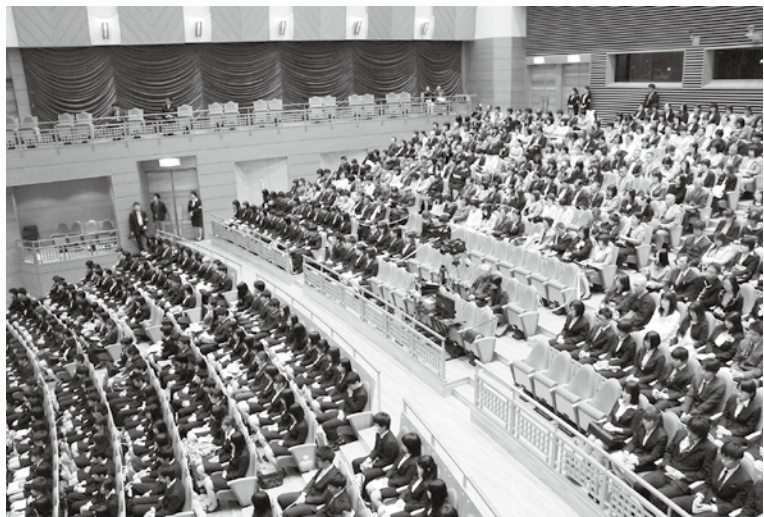
入学者の内訳は、初等教育学科218名、国文学科144名、英文学科136名、社会学科現代社会専攻101名、同学科環境・コミュニティ創造専攻76名、比較文化学科130名、文学専攻科5名、大学院文学研究科9名、学部3年次編入22名であり、合わせて841名の入学が認証されました。

会場の大ホールは、入学者およびその保護者でほぼ満員となり、小ホールのスクリーンでも保護者が見守る中、式典が執り行われました。

式は本学横内正明理事長の挨拶から始まり、福田誠治学長による入学認証、および新入生を迎える言葉、続いて堀内富久都留市長、国田正己都留市議会議員、長坂文史都留文科大学後援会長、水岸富美男山梨県議会議員より祝辞を頂戴いたしました。

そして新入生の代表として、第一部では社会学科の天野樹音さんが「新しい未知なる世界に一步を踏み出し、多くのことを経験し、そして、自分の世界を豊かに広げ、学びを深めていきたい」と、また第二部では英文学科の長田真依さんが「全国から集まる仲間、世界から留学してくる仲間との交流の中でさまざまな歴史や文化に触れ、相手が生活してきた背景を知り、理解することを学んでいきたい」とそれぞれの決意を述べてくれました。

最後には、吉田悟氏の指揮による本学管弦楽団の演奏にのせて、本学合唱団とともに学生歌「花のかげ」を全員で合唱し、厳粛なうちに式を終了しました。



新入生の言葉



社会学科
現代社会専攻 天野樹音

柔らかな日差しに木々の芽も伸び、桜もほころぶこの佳き日に、伝統ある都留文科大学の入学式を迎えることができたことを大変嬉しく思います。私たちが今の日に臨むことができるのも、母校の先生方、家族や友人たちの支え、地域の方々の暖かい励ましのおかげです。多くの方々の想いを心に留め、4年間という大学生活をかけがえのないものとすべく、一日一日を大切に過ごして参ります。

私たちの生きている現代の社会は、情報化やグローバル化が進み、豊かで便利になったと言われます。しかし、一方で国家間の格差は一層拡大し、これを原因とするさまざまな軋轢が以前よりも激しさを増して表面化するとともに、不安定な国際社会において国家が倒産する可能性すら指摘されています。日本も表面的な豊かさとはうらはらに、社会における格差はますます拡大し、相対的貧困率は先進国の中でも有数の高さとなっています。また、経済的な必要性からのみではなく、充実した生活を実現のためでもある高齢者や女性の社会での活躍を支える施策もなかなか進まないのが現実であり、保育園の増設を求めた匿名ブログをきっかけに、制度の充実を求める声が大きくなっているのも記憶に新しいところです。



英文学科 長田真依

暖かな春の日差しに誘われて桜の花もほころび始めたこの佳き日に、伝統ある都留文科大学の入学式を迎えられたことを大変光栄に思います。私たちが今、この場に臨むことができるのは、母校の先生方の熱心なご指導や家族の愛情、友人たちの励ましなど、多くの方々による支えのおかげです。そのことを心に留め、4年間という限られた時間の中で、仲間とともに学び、切磋琢磨しながら日々精進して参ります。

今日の社会ではグローバル化が一層進展し、世界が私たちの生活により身近なものとなりました。それに伴い、大きな経済格差や異なる文化同士の相克など、さまざまな問題も決して無縁な存在ではないものとして認識されるようになっていきます。そして自らと異なるものを受け入れることを拒絶し、あまつさえ排除しようとする意識、お互いに対する無理解などにより生み出されるさまざまな悲劇も多く生じているのが現実です。

しかし、自分のすぐ隣に異なる文化を形成した人々が存在し、ボーダーレス化した社会を非常に多くの人・物・資金が飛び交っている中で、この誤解と無理解を見過ごすことは、現代社会そして今後も続く歴史と伝統にとつ

さまざまな問題が指摘されているなか、昨年、国会において選挙権年齢が18歳に引き下げられ、私たちにも選挙権が与えられました。予定通りならばこの夏の参議院議員選挙から選挙権を行使し、政治に直接関わることになります。これは政治に参加する権利を得ると同時に、「決断」とそれぞれの「責任」を果たす事を求められていることに他なりません。その際、「決断」と「責任」に気付かないふりをしたり、自分で考えずに無条件で他人に決断を委ねることは、結果として自らそして社会の将来に降りかかってきます。政治的な無関心は社会を停滞させることにつながりかねません。

このような時代だからこそ、それぞれの学問分野で、社会の中で暮らす人間の幸福のために今何をすべきかを考え、問題に立ち向かう資質を身に付けていかなければなりません。それにはさまざまな事を自らの問題として捉え、考える姿勢を身に付けていく必要があります。私たちは今、歴史ある都留文科大学で学ぶ機会を得て、それに向けて能動的に努力する機会を与えて頂きました。全国から学生が集まるこの都留文科大学の恵まれた環境で、新しい未知なる世界に一步を踏み出し、多くのことを経験し、そして、自分の世界を豊かに広げ、学びを深めていきたいと思います。自らの「決断」と「責任」を果たし、その重要性を周囲に発信することのできる存在になることを目指して、未来を見据えた目標と大きな志を持って大学生として歩み続けることを誓い、新入生のことばといたします。

でも大きなマイナスであることは間違いありません。そのため、私たちは大学での生活を通して、他人との違いを理解し、自らの文化に愛着を持つと同じように、自分に持っていないものを尊重する意識を育てていくつもりです。自分の常識にとらわれずに受け入れて、自らと異なるものを理解することが、こうした問題の解決の第一歩となります。

都留文科大学には、全国から集まる仲間がいます。さらに世界から留学してくる仲間との交流の中でも、さまざまな歴史や文化に触れることができます。そうした機会の中で、相手が生活してきた背景を知り、理解することを学んでいきたいと思います。また、こうした理解を自分だけに留めず、発信することができる人間にもなりたいとも思います。

私たちは歴史ある都留文科大学の学生として恥じることもないよう、自覚と誇りを持ち、世界に貢献できるよう歩みを進めて参ります。グローバル化、ユニバーサル化される世界を力強く生き抜いていける資質を身に付けるため、限られた時間の中で、全国から集まる仲間と共に、一日一日を実りある素晴らしいものにすべく、学び合いさらに成長することをここに誓い、新入生の言葉といたします。

2016年入学式 式辞

都留文科大学学長 福田誠治



学長 福田誠治

この度、晴れて都留文科大学に入学なさった皆さん、おめでとうございます。この良き日に、都留文科大学の教員と職員を代表して、お祝い申し上げます。また、この日を待ちわびていらっしゃるご家族の皆様にも、心よりお慶び申し上げます。

さて、学校は学問ないし科学と個人の生活が皆さんの頭の中で出会う場所です。大学は、さらに研究する力を身につける場所です。ところが、日本の教育では、まず答えを覚えることを優先し、疑問を持つこと、突き詰めて考えることは二の次にされてきました。

「ピンポン、正解。速い」

「まだ問題いってないじゃないか」

そうなのです。入試問題を解く前に、練習問題をいくつも解いて正解を予想するわけです。そこで、たまたま思いついて「光」などと言ったりすると、

「ブー。お手つきです」

「おまえらぐるか」

そうなのです。ぐるなのです。

「いいか、これ試験に出すぞ、よく覚えておけ」
という先生もいれば、

「これ試験に出るかもよ」

とやんわりけしかける先生もいます。

「そうか出るんだ」

と考えて、しっかりノートに書きとめて一生懸命覚えると、本当に試験に出ているのです。しめしめです。

先生は試験に出るところを教え、生徒は試験で点が取れることを覚える。これでは、人生に本当に必要なことは学べなくなってしまう。そうではなくて、その子の将来を考えてぜひ学んでほしいことを教師は教え、生徒は自分の将来を考えて必要なことを学んでいくべきです。もともとやってみたい、面白いというところに学びが成立します。学んだことが血となり肉となり、自分という人間を成長させていくもので、学びの成果はいつどこで現れるのか、それがどこでいつ学んだこ

となのかは判然としません。

分数の割り算は分子と分母をひっくりかえして掛けると教わるのですが、これでは分子と分母それぞれで整数の計算をしているだけで、分数の概念を理解していることにはなりません。テストができればわかっているのかと言えば、そうでも無いのです。

われわれは、生物の教科書で受精卵と胚分割を習いました。細胞核も同時に2分割、4分割、8分割となって、その後教科書のイラストはずっととんでしっぽのあるお魚さんのような形になって、10か月で赤ちゃんになる。そんな説明に妙に納得してしまったのです。ところが、分裂しながらなぜ人体を構成する37兆2000億個の細胞に分かれていくのか、最後には変化が止まって古い細胞は新しい細胞に間違いなく入れ替わっていくのはなぜか。ここに疑問を持った人たちがいて、IPS細胞発見へとつながります。不思議な薬品を加えて細い管をくぐらせれば細胞は祖先返りしてSTAP細胞にたどりつくという奇想天外な実験をした人もいました。疑問を持たないと、研究は始まりません。

日常生活の中で得られた知識を常識とすれば、学問ないし科学は非常識です。例えば、「地球は丸い」ということを日常生活の中で理解することは容易なことではありません。皆さんはどう説明しますか。テストに出れば、「地球は丸い」と答えるでしょう。しかし、丸かったら人間は滑り落ちてしまうのではないかと考えませんか。あれこれ疑問を持つとやっかいです。引力とか遠心力、慣性の法則などと合わせて考えないと説明がつかないの

です。そのためには、知識をつないでいく論理的、体系的な、粘り強い学びが必要になってきます。

私が45歳頃でした。シカゴ空港から帰路につきました。日本を目指して飛び立った飛行機は、モニターを見ているとどんどん北上します。ついに地図を突き抜け、次に現れた時には、ロシア上空で、オホーツク海を南下し始めました。その時生まれて初めて、窓の下に間宮海峡を見ました。ロシア名、Татарский пролив、英語名 Tatar Strait、中国名は韃靼海峡です。大陸とサハリンの大きさに比べれば、その狭かったこと。感動しました。シカゴは西経 87 度 39 分ですから、この経線は東経 92 度 21 分の経線とともに大門を形成します。シカゴから北極点を通り越してまっすぐ進めばチベットあたりにたどり着きます。おそらく、私の乗った飛行機はもう少し西寄りに北上し、偏西風に流されて東寄りに南下しながら、燃料費を節約して成田に無事にたどり着いたということでしょう。自分は今どこにいるのか、これからどこに行くのかをワクワクしながら考え続けたとても面白い体験でした。ちなみに、英語名では Strait of Tartary と表記する場合もあります。フランス語の古い綴りではタタールは Tartare で、タルタルソースの元祖です。言葉づかいからすると、中国人はそこが海峡であるとは認識していなかったようです。ロシア人は現地の少数民族（アイヌ、ニヴヒ、ウィルタ、女真（満）族）から聞いてかなり古くからそこが海峡であることを知っていた。そこで、遠い辺境の地という意味でタタールという言葉が付けたと推測されます。ちなみに、タタール共和国はウラル山脈の西にあり、首都はカザンです。日本からはずいぶんと離れています。

日本には、「てふてふが一匹韃靼海峡を渡つて行つた」と詠んだ詩人（安西冬衛）もいます。氷が解けて春が来たと。このたった1行の詩が、日本の現代詩の始まりと言われている。

韃靼人の踊りは、ロシアの作曲家アレクサンドル・ボロディンが作曲したオペラ『イー

ゴリ公』の第2幕の曲です。私は中学の音楽の授業で国民楽派と習ったのですが、英語名は nationalist school です。西欧に対するスラヴ世界という意味では国民楽派ですが、タタールとすれば民族学派と訳すべきだったと大学に入ってから考えるようになりました。この音楽は、18～19世紀の文学や政治におけるロマン主義を起源とし、美術や音楽、建築など広範囲の芸術領域に波及した「ナショナル・ロマンティシズム (National Romanticism)」運動の一貫と見なされ、西欧世界のヨーロッパ支配に対する地方の抵抗という意味で歴史的に理解されます。

大学では、学問や科学の知識を突き詰める経験とともに、研究の方法論も学びます。なぜだろう、どうしてもと探究する中で、今まで見えていなかったものを突き止める方法を学ぶわけです。知識を暗記する段階で終わってはいけません。その次、知識と知識をつないでどのように体系化し理解するか、それこそが問われるのです。「そうだったのか」と納得できるレベルまで学びを突き詰めてください。大学は修行の場ですから、悟りを開くかどうかは皆さん一人ひとりが決めること。成果は、皆さんの努力次第です。その成果を皆さんがつかめるように、都留文科大学の教職員は全力を挙げて支援いたします。また、都留の濃い人間関係が、皆さんの人生を豊かにしてくれるものと思います。新入生の皆さんの新たな勉学生活に期待して歓迎の言葉といたします。

新教員紹介

文大に着任するにあたって

縁にTsuruれば
唐の物

初等教育学科教授
中川佳子

2016年4月より初等教育学科に就任いたしました中川佳子と申します。心理臨床系の科目を担当します。出身は京都府ですが、山梨県にご縁があるようで、これまで山梨県郡内地方（東部富士五湖）にある健康科学大学・昭和大学で教鞭をとりました。また、臨床心理士として市町村の発達相談員やリハビリテーションクリニックの心理相談員をしておりました。今回この地域で再び教鞭をとることになりましたことを光榮に存じます。

さて、本学に着任し最初に驚いたことはまじめで熱心な学生さんが多いということです。また、勉強だけでなくさまざまな活動にも熱心で、部活動や地域ボランティア活動など主体的に行動する活動的な学生さんが多い大学だと感じました。好きこそものの上手なれといいますが、おもしろくて熱中して勉強や活動を行い、そこで疑問や問題に気づき、解決策を見出してさらにおもしろくなっている。そんな学生さんの姿をよく見かけます。子どもの発達援助に関わろうとする向上心を持つ学生さんが多いからなのかもしれませんが、講義では好奇心旺盛な学生さんの生き生き

としたまなざしを受け、たじろいしてしまうこともあります。心理学の専門家として教師になる人たちに何を教授することができるのか。重大な責任を担っていると考えています。

ところで、私の専門分野は発達臨床心理学という領域になります。これは一人ひとりの能力に応じて日常生活をよりよく適用できるような心理的援助を研究するもので、特にコミュニケーション能力に着目して研究しています。この研究は1997年から始まり、2010年にはイギリス版 TROG と欧州各国語版 L'E.CO.S.SE を踏襲した J.COSS 日本語理解テストを開発しました。このテストを用いて、山梨県をはじめ日本全国の幼児や児童、高齢者を対象に横断調査を行い日本語理解の生涯発達過程を示しました。そしてこの生涯発達過程を基に、発達障害や聴覚障害、失語症、認知症などコミュニケーションに問題を抱える方の特異性と残存機能を評価し、障害領域への心理的支援を行ない、その成果を発表しています。これまでいろいろな地域のさまざまな年齢層の3000人以上の方にご協力いただいたいき研究を実施し、さまざまな人たちと出会いました。私の仕

事は発達臨床心理学を専門とする教育者として、乳幼児や青年、高齢者、障害をもつ方など、すべての人の「こころ」を適切に評価し、一人ひとりが有する能力を最大限有効に活用し、発達の可能性を考慮して伸ばす援助や支援を行うことだと考えています。この専門性を生かして、本学学生の能力を適切に評価し、着実に実現可能な目標の設定や進捗と達成に至るまでの支援を行っていきたいと考えています。

山梨県 Tsuru 市とのご縁をもとに、心理学の専門家として、本学で何ができるのか。地域にどのように貢献できるか。いろいろと勉強させていただきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。



International Neuropsychological Society 2009
Mid-year Meeting in Helsinki での学会発表

新教員紹介

文大に着任するにあたって

身体との対話を



初等教育学科教授
水口 潔

2016 年 4 月より初等教育学科に着任しました水口潔です。

歴史と伝統のある本学の一員として仕事をさせていただけることは、誠に身の引き締まる思いです。微力ながらも力添えできるように精進してまいります。どうぞよろしくお願い致します。

私は、体育学を専門とし、競技として大学まで硬式野球部に所属していました。前任校は新設大学で、開学時から 9 年間、体育学部において指導していました。そこでは、中学校や高等学校の保健体育の教員養成に関わる実技、講義、ゼミ活動などを担当し、硬式野球部のコーチや部長なども務めました。また、スポーツ運動学を研究しており、運動学習における指導者と学習者の双方向のやり取りを通して、運動している人の身体知や運動感覚を明らかにしていくことを目指しています。このスポーツ運動学はゲートの形態学に端を発する現象学的人間学を基礎とし、精密な映像や科学的な知識だけでは、できない運動ができるようにはならないという立場を取る学問領域です。

スポーツを取り巻く環境



2015 年度 大学体育連合研修会 八甲田山にて

は、日進月歩で進化を続けています。この変化に柔軟に対応するためには、自分の身体や運動感覚こそがその拠り所となります。そのために日々研鑽をして指導経験や運動経験を蓄積し、身体知を学生と共有できるよう努力していきたいと考えております。

これまで本学のスキー実習やゴルフ実習に、外部講師として参加しておりました。実習を通して、いつも疑問に感じていたことがありました。それは学生の指導者や年配者との接し方、友人との関わり方、学びの姿勢や雰囲気などが、どのように育まれているのだろうということでした。しかし、4 月に着任しそれらの疑問は払拭されました。全国津々浦々から集まる学生が、緑豊かで落ち着いた都留の風土と融合し他のどこにもない大学の雰囲気を醸し出していること、様々な行事を通して先輩から受け継がれてい

る目に見えない絆のようなものがあること、他にも大学の歴史や伝統そのものが学生を育んでいるのだと感じました。

このような恵まれた環境において本学の学生とともに、専門である体育の授業を通して教育活動の一端が担えることを、こころより嬉しく思っています。

体育の授業は、不確定要素の連続であり、臨機応変な対応力が求められ、一筋縄にはいかないという、ある意味では反論理的な実践の場です。だからこそ、それを乗り越えた時には、個人の感動や友人との協力関係が大きく育まれるのではないのでしょうか。自分の身体に意識を向けること、自分を通して他の人の身体を感じることで、両者を通じて育まれる心身の健康を共に模索していきたいと強く思っております。どうぞよろしくお願い致します。

新教員紹介

文大に着任するにあたって

ICTと国語科教育—職場と教室の格差問題

国文学科准教授
野中 潤

国文学科准教授に着任した野中潤です。昨年度まで28年間にわたり神奈川県聖光学院中学校高等学校に勤めていました。元号が変わり、新世紀に突入し、社会状況が激変した時代でした。職員室で仕事をするための環境も様変わり。ガリ版印刷機や和文タイプライターが廃棄され、ワープロ専用機が普及しますが、やがてすべてはパソコンでの作業に置き換えられていきます。気がつくと、職員室の机上からゴム印や電卓が姿を消し、通知表や調査書の作成などもすべてパソコン入力で行うようになっていました。近年は、ChromebookやiPadなどが教室に持ち込まれ、プロジェクターや電子黒板で教材提示がなされたり、教育用のプラットフォームで教材配布が行われたりする授業も増えつつあります。タブレットとスマホを机上に置いて手書きノートで物理の問題を解いている中学生や、インターネットに公開されている最先端の論文を英語で読みながら遺伝子組換えの実験をして研究成果を学会で発表しようとする高校生も出現しています。幕末維新期のことを考えればわかるように、変化の波は、さまざまな軋轢を生みながらも瞬く間に世の中を飲み込んでいきます。在学中の大学生が、もしも中高時代に受けた授業のイメージをまったく更新できないまま

でいると、浦島太郎のような状態になってしまう可能性も皆無ではありません。

もちろん今でも黒板とチョークは健在ですし、全国の多くの生徒たちは、シャープペンシルで文字や図表などをノートに書き込んで勉強をしています。しかし、今や世の中の大半の職場が、職員室も含め、ICTなしでは成り立たなくなっています。この「原稿」も、「原稿用紙」に「書いている」のではなく、iPadにインストールした「Googleドキュメント」に、Bluetoothで接続した「キーボード」を使って「入力作業」を行い、電車の中で「作成」しています。

このような時代になった以上、学校だけが「紙と鉛筆」ですべてを済ませているわけにもいきません。学校では紙と鉛筆だけ、家に帰るとスマホでフリック入力だけ、という中高時代を過ごしていたら、キーボード入力もまともにできない大学生が生まれてしまうでしょう。スマホを持つことができないまま中高時代を過ごした生徒は、フリック入力さえもできませんから、就活での情報収集やエン

トリー手続きにおいても大きなハンデキャップを負うことになります。従来型のテクノロジー（紙と鉛筆）の良さを継承しつつ、発達段階に合わせて小中高の教室にも一定の割合で新しいテクノロジー（ICT機器）を導入し、そうした機器を使いながら国語の力を伸ばしていく体験を積ませることを考えなくてはならないのです。

詳述する紙幅はありませんが、新しいテクノロジーが「学校」という枠組み自体に揺さぶりをかけているということも、指摘しておかなければならないでしょう。自分が受けてきた教育とは異なるスタイルの授業をデザインすることができなければ、「21世紀型スキル」を育成するという要請に応えることも困難なのです。

以上が、私が今年度の授業をするにあたって抱いている、いちばん大きな問題意識のあらましです。こうした問題に向き合うために、既成概念にとらわれず、失敗を恐れず、未知のものにも果敢にチャレンジし、学生諸君とともに、国語科教育のフロンティアを切り拓いていこうと決意しています。



国語教育学ゼミ3年生と（iPadでロイロノートスクール研究）

新教員紹介

文大に着任するにあたって

詩を通して、言葉と社会の関係を考える



国文学科講師
田口 麻奈

今春より国文学科に着任いたしました、田口麻奈です。四月からこちら、通勤時の車窓やキャンパスで多彩な春の花や新緑を間近に眺め、なんて清々しい、と感激していた次第ですが、そろそろ初夏らしく暑くなってきたためか「ここは夏場は谷村虫っていう強力なブヨが出るんですよ～」と脅かされました。さっそく学生の一人に尋ねてみると、「そういうこと言ってるのは都会育ちの人ですよ！私の地元なんか・・・」と一家言あり、その話があまりに面白くて、先日はつい長い午後になりました。

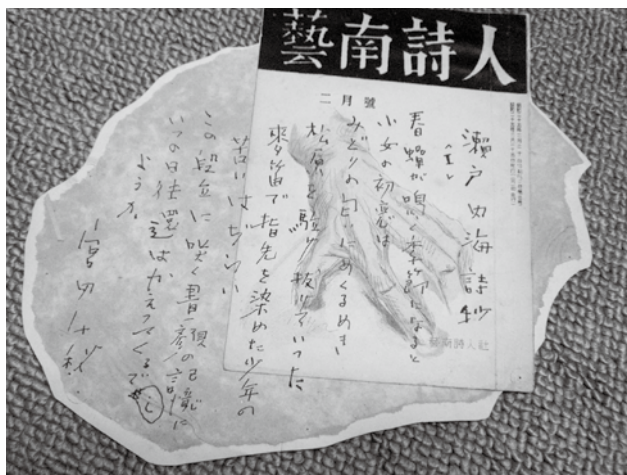
虫の詳細はともかく、学生の皆さんがそれぞれ違う郷里の方言で、生き生きと地元の話をし合う光景は何とも魅力的です。思えば先年、文大の創立六〇周年記念に制作された愛唱歌の歌詞に「互いの訛りが心地いい」、「小さな日本に私はいる」というフレーズがあつてとても印象に残っていました。卒業生の方が書かれたあの歌詞は理念ではなくて実感だったんだな、と納得の思いです。同郷意識を高めるためではなく、違うところから来て一緒にいることを喜

び合うためのような、素敵な作法だと感じています。

私の専門は戦後の詩で、とりわけ、鮎川信夫や田村隆一など「荒地」グループの詩を中心に研究して参りました。

詩、と言うとどこか内閉的で浮き世離れした印象を抱かれることもあるのですが、「荒地」は戦争を通過した現代詩に思想性を導入したと言われる、戦後詩の要のような硬派なグループです。戦後の盛んな社会運動に身を投じたグループではありませんが、言葉は、それが詩の言葉であっても避けがたく社会性を帯びるのだという信念があり、そこに文学の功罪を見ていたグループだと思っています。

ただ、研究としては蓄積が乏しく、資料も足りていなかった分野なので、二〇代の間はずいぶん資料整備にも奔走しました。所在不明の古い詩雑誌^{ほうほう}に関するヒントを集めて、方々に手紙を書き、所蔵者が見つかったら会いに行つて話を聞いて、という一連の作業は、思いもかけなかった発見や出会いに満ちていました。時として重要な資料が見つかるのが嬉しい、という



1953年、広島県呉市で開催された「現代詩展」展示品の一部。この『芸南詩人』のメンバーが「荒地」の鮎川信夫と親交を深め、グループ内から重要な詩人・詩論家を輩出する

こともあります。やはり、六〇年以上前の同人誌を長年大切に保存してきた人がいるという事実に励まされます。そして、異なった時代感覚を持つ詩を柔軟に受け止められる学生達を見ていると、真剣に詩の社会化の可能性を模索していた戦後詩が後世に届く瞬間に立ち会っているようで、深い喜びを感じます。着任してから一ヶ月半の間に、そういう真摯で頼もしい学生にすでに何人も出会いました。これから一緒に学んでゆけるのが楽しみで仕方ありません。

珍しいことに、文大には詩や詩の教授法を研究なさっている先生が他にも多くいらっしゃる、それは大学の先進性の表れだと思います。ほかではなくここにご縁を頂いたことを、とても嬉しく思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。

新教員紹介

文大に着任するにあたって

「自らの歴史をつくる主体」であるために

社会学科講師
富永貴公

2016年4月、社会学科現代社会専攻に着任をいたしました富永貴公です。私の専門は、生涯学習論、社会教育学です。とりわけ、ジェンダー・セクシュアリティにかかわる学習論、英国における成人教育の歴史的、今日的な展開についての研究に取り組んできました。

私は大学の学部入学当初、生涯学習や社会教育についての研究を志していたのではありません。そもそも、「教育」といえば学校教育のことであって、それ以外の学習の場が存在することや、それらに価値があることについて考えたこともなく、むしろ、否定的でさえあったように思います。

日本独自の社会教育施設（「社会教育」そのものが日本独自ではありますが）として公民館が挙げられますが、公民館といえば、「行きたくないのに参加させられた子ども会」や、「寝ていたいのに行かれた夏休みのラジオ体操」や、古くて黴くさい畳の臭いなどなど…。挙げればきりが無いネガティブな印象をもつものでしかありませんでした。

22歳で大学を卒業してし

まえば勉強はおしまい、仕事は“そこそこ”で、充実させるべきはプライベート。それが、私の思い描いていた将来でした。その私が学部4年間では飽き足らず、大学院の博士課程にまで進学をしたのは、10年にわたってご指導いただいた恩師によるところが大きいと思います。

大学2年時、空きコマの単位稼ぎで受講した恩師の授業において、私たちは性を得て生まれてくるのではなく、性別を与えられ、それによって制限されながら発達してきたこと、それを乗り越えるための学習が、学校のみならず、公民館や職場を含む社会のさまざまな場所に存在していること、そのなかでは、知識の獲得に加えて、それまでの経験と知識を使いながら、新しい知を生み出すような学習が展開されていることを知りました。このことは、私のなかにぼんやりとあったものに言葉を与え、私の教育・学習観を深め、転換したことによって、今日までの研究活動の基盤となっています。

さらに、大学院修了後に勤めた高齢者大学や男女共同参画推進センターにおけるコーディネーター、学習指導員としての経験、現在も継続している公民館での講座の企画・運営の経験、ポスドク研究員時の英国における

寄宿制成人高等教育機関でのフィールドワーク経験などから、実際の教育・学習の場と往還的な関係にある社会教育・生涯学習研究の意義を確認することができました。

1985年、パリで開催されたユネスコ国際成人教育会議では「学習権宣言」が採択されました。同宣言は、「人類の将来がどうなるか、それは誰が決めるのか」と問いました。個人、集団、人類全体として、私たちが「なりゆきまかせの客体から、自らの歴史をつくる主体」になるために実現が目指される生涯学習社会には、地域における社会教育の充実が不可欠です。このような社会教育の価値を学内外で共有しながら、つねに、実際の教育・学習の場とつながった研究や教育に取り組みたいと思います。

英国フィールドワーク先のラスキン・カレッジ
（オックスフォード、当時）

学外研究報告



初等教育学科
准教授
山森美穂

2015 年度に学外研究の機会をいただきました。大学教職員のみならず、とくに自然環境科学系の先生方、不在中の授業を引き受けてくださった非常勤講師の先生方に御礼申し上げます。

私は、東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻大気海洋科学講座の佐藤薫教授の研究室に客員共同研究員として滞在しました。こちらの研究室は「南極昭和基地大型大気レーダー計画 (PANSY)」という、南極昭和基地に大型の大気レーダー（説明は後述）を設置し、これを軸として既存の観測機器や高精度数値シミュレーションも組み合わせ、南極特有の大気現象や地球気候にかかわる課題の解明を目指す科学プロジェクトを推進する中心の一つです。私は大学院在学中、滋賀県甲賀市にある日本で最初で最大の大気レーダーの観測データを使って、対流圏と成層圏の境目で起きている特徴的な気流の変動の研究をしていました。また、PANSY を意識した研究観測であった中部太平洋上での気球観

東京で南極の大気に思いを馳せる

測に乗船研究者として参加した経験もあり、PANSY レーダーデータによる大気研究に大変関心をもっていました。PANSY レーダーは 2015 年 3 月からフルシステムでの連続観測が開始されましたので、幸運にも、その直後の 4 月から研究グループに加わったことになります。期間中、研究会や学会に例年になく頻度で参加することができました。なかでも、データ鑑賞ミーティングという、最近の PANSY レーダーを含めた何種かの気象データをメンバーで眺めて、興味深い現象や見たことのない現象が捉えられていないかをどんどん出しあう会は、殊の外楽しい機会でした。主な研究課題として、昭和基地上空の高度 10km 程度までの風速変動の特徴について統計的解析を行いました。期間の後半から、PANSY レーダーの反射波強度から水蒸気量のデータを導出する共同研究に着手しました。こちらはまだまだこれからです。

さて、大気レーダーとは何か。気象レーダーによる降水分布は、気象情報の一つとして馴染みかと思いますが。気象レーダーは、波長数 cm の電波を空に向かって発射し、雨粒（直径 1mm 程度）ではね返って戻ってくる電波の強度から雨粒が高密度に存在するところを検出する測器です。波長が数 m の電波を用いると、電波は雨粒で散乱されません。では素通りするのかというと、電波に対する

大気の屈折率の非一様によってわずかに散乱されます（屈折率は、気温や水蒸気量に依存しています）。このとき、空気が動いていると、反射波の周波数が変わります（ドップラー効果）。したがって、戻ってきた電波の周波数を調べれば、上空の特定の高度での空気の動く速さ、すなわち風速を求められます。雨天時も晴天時も風速測定が可能なこの種のレーダーが「大気レーダー」です。PANSY レーダーは高度 1.5 ～ 二十数 km と 60 ～ 80km 付近の 3 次元風速が得られます。戻ってくる電波がわずかであるため、大型の装置が必要です（PANSY のアンテナの面積は甲子園球場とほぼ同じ）。上空の風速の観測は、大気レーダーが開発されるまでは、6 ～ 12 時間おきが主でしたので、レーダーにより分単位で連続データが得られるのは画期的なことでした。地球大気のダイナミクスの理解の深まりには、さまざまな観測機器の開発が大きく貢献していますが、大型大気レーダーもその測器の一つです。

そのほか、ダジック・アース「4 次元デジタル地球儀」(<http://www.dagik.net/>) という球形のスクリーンに地球・月・惑星の画像（動画）を表示するシステムを活用した小・中学校での授業実践や科学館等での展示等について、見聞きしてきました。本学でもゼミの学生たちと教材開発に取り組んでいきたいと考えています。見てみたい、試してみたいという方（とくに初教の学生さん）は気軽に声をかけてください。



半球スクリーンに投影したひまわり 8 号による雲画像。復帰後、自然科学棟 4 階にて

学外研究報告



社会科学教授
進藤 兵

私は2015年度に学外研究を行った。目標は、①日本地方自治の研究、②東京地方の経済社会と政治行政の研究、③欧州の大都市を中心とした政治研究、の3点を進めることであった。とくに①は30年近く取り組んでいるテーマである。明治時代から2010年代に至るまでの「市長職」の経歴分析は、戦前編の検討を済ませ、戦後直後から1980年代まではデータを収集し終えている。直近20年のデータ収集と戦後編の分析を行うことが、学外研究の課題であった。3つの課題は1年間でおおむね進めることができたと思う。

2015年4月1日、午前中に東京大学本郷キャンパスに



学外研究中に毎日読み続けた英国紙 Guardian (写真は「東京オリンピック汚職」を世界で初めて報じた紙面)

学外研究を終えて

ある社会科学研究所(社研)へ行き、受入教員である中村尚史教授(日本経営史)と新所長・大沢真理先生にご挨拶し、事務手続をすませて、研修員となった。その日の午後、今度は慶應大学三田キャンパスに行き、紹介教員である柳沢遊教授(日本経済史)のご案内で、図書館などで事務手続をして経済学部訪問教授となった。

本郷界隈は、古本屋街が崩壊して久しく、オフィスビルと高層マンションが乱立し、見るも無残な光景である。キャンパス内も同様で、大学法人化の悪い影響がここに現れていた。ただ、7月から数回にわたって開かれた「安保法案に反対する大学人緊急集会」に良心をみた。また社研では月例研究会、夏の暑気払い、忘年会、年度末のパーティと、アットホームな雰囲気が残っていた。元技官(カメラマン)の森田さんと再会できたこともうれしかった。当時、東京港竹芝埠頭ちかくにあった都立公文書館で、森田さんからマイクロフィルム撮影の指導をしてもらいながら、ある史料を来る日も来る日も撮影したことを、なつかしく思い出した。耐震工事の関係で、研究室入居は7月1日であった。その部屋が私の助手部屋と同

じであったのは、驚きでもありうれしくもあった。夏からは7層にわたる薄暗い書庫にも入れるようになった。壁を乗り越えないと行けない書架や、壁の下をくぐらないと行けない書架は元通りであった。

三田界隈も、国家戦略特区による都市再開発の波に浸食され、キャンパスには「グローバル〇〇」なる「怪しげな」(ある先生の談)棟が建っている。私は東別館に個室の研究室をいただけた。学生が不意に訪ねてきたりしない、事務局から電話がかかってくるこない、静穏な研究室で黙々と机に向かい、難解なテキストの読解に頭を悩ませ、データの読み取りを論文の論理に落とし込むことに苦勞し、疲れて気がつくといふ生活の幸せを味わった。三田の図書館では、中央館に英国紙『Observer』やスペイン紙『Pais』も紙媒体で備えられていて、たいへん重宝した。地下4階にある南館や旧館(天井が低く、階段も一歩降りるごとに揺れる)の奥から借り出してきた文献は私の論文に参照されている。学問共同体における国と時代を超えた連帯を、一年を終えた今、実感している。

学外研究報告



比較文化学科准教授
内山史子

2015 年度に学外研究の機会をいただき、研究活動に専念する時間を得た。上智大学アジア文化研究所に客員研究員として受け入れていただき、上智大学図書館内にある研究室で、植民地期フィリピンに関する史料をひたすら読むことに時間を費やした一年であった。

上智大学は、「ガルシア・コレクション」というフィリピン関連資料の貴重なコレクションを所蔵している。このコレクションは、フィリピン人の書誌学者・歴史研究者であったマウロ・ガルシア氏（1906 - 1982）私蔵の書籍や定期刊行物など総計で 7000 点近い資料から成る。ガルシア氏は研究者であると同時に、私の研究対象であるフィリピン・コモンウェルス政府（独立準備政府、1935-1946）の大統領府や政府機関に勤務し、また日本占領期（1942-1945）には比島行政府で文書管理の業務にあたった人物である。こうした経歴のなかで同氏が収集した資料の総体そのものがフィリピンの歴史を語るものであると同時に、その経歴ゆえに日本占領期に現地フィリピンで発令された法令文書等の占領期関係一次史料の豊富さは他に例を見ないものとなっている。

学外研究報告

私が長らく取り組んでいる研究テーマは、アメリカからの独立を 10 年後に控えたフィリピン・コモンウェルス期の教育政策を、国民形成の試みという視点から検討することである。今回、私が上智大学に籍を置かせていただいたのは、このガルシア・コレクション中のコモンウェルス期に関わる史料を閲覧することが主な目的であった。1930 年代から 40 年代にフィリピンとアメリカ両国で刊行された書籍（現在では稀覯書となっているものも多い）のみならず、フィリピンを他国に紹介するブックレット、この時期に行われた公的行事や大規模イベントのブローシャ、文化から政治まで様々な課題について立ち上げられた研究会の活動報告や意見書、7000 を超える島々から成るフィリピン諸島各地の文化についての調査報告、フィリピン国内外で出版された雑誌、そして公立小学校で使用された教科書など、同コレクションには散逸・焼失して本国フィリピンでも入手が困難な史料が多く含まれている。それらの史料の中から、公教育においては何をフィリピンの国民文化として取り上げ、それを学校でどのように扱ったのかを明らかにしたいと考えていた。

結論を述べると、学校教育関係の史料には国民文化政策に関わるものはさほど多くはなく、現在執筆中の論文に反映させられる史料には出逢えなかった。しかしながら、これも歴史研究の宿命であり、ある課題をめぐるどのような性格・内容の史料がどこに存在するのかを一つ一つ確認していく作業は、議論の安定性を確保するには欠かせない。これまで、史料点数が多いため、まとまった時間がなくなかなか丁寧に見ることが出来なかったコレクションに、この機会に目を通すことが出来たことは大変に嬉しいことであった。

それらの史料の数々を思い返すと、史料の紙やインクの匂いとともに生きいきと浮かび上がる戦前フィリピン社会の姿に今も胸が躍り、いつかそれらを用いてフィリピンの歴史を書いてみたいと思う。史料と向き合い続ける濃密な時間と知見を得られたことは、歴史研究者として誠に幸せである。この機会を与えていただいたことに心より感謝し、今後の研究に是非とも活かせるよう努めたいと思う。

昨年度の就職状況等を振り返って

副学長（兼キャリア支援センター長）
新保祐司



本学の平成27年度就職状況（5月1日現在）を振り返ってみると、就職率は、95.9%で昨年度の94.9%よりも1.0ポイントの増となりました。一方、文部科学省と厚生労働省による平成27年度就職状況調査（国公私立大学から62校を抽出）をみると、今春卒業した大学生の就職率は、97.33%（4月1日現在）で、前年同期比0.6ポイント増となりました。平成9年の統計開始以来、最も高かったリーマン・ショック前（平成20年3月卒）を上回り、過去最高となりました。本学は、その数字よりやや下回っていますが、前年比増となっています。

本学では、754名の卒業生（前期卒業生を含む）を送り出しました。就職希望者は、631名で、そのうち605名の就職が決まりました。就職率は、前述したように、95.9%でした。平成23年度から90%に回復しましたが、

平成27年度も堅調といっていると思います。数でみると、昨年度の就職決定者数が581名だったのが、605名になり、600名を超えました。

就職先の内訳をみると、教員（臨時採用を含む）は、公立学校と私立学校を合わせて、201名となり、昨年度よりも6名減少しましたが、200名台を達成しています。小学校が、134名、中学校が、33名、高等学校が19名、私立学校が5名などとなっています。公立学校では、北海道から沖縄まで、全国の多くの都道府県、市で採用されています。山梨県の31名を筆頭に、東京都の16名、長野県の7名、静岡県県の18名、神奈川県県の9名、愛知県の10名、千葉県・市の10名、といったところが注目されます。公務員は、60名と昨年の63名からは3名減少しましたが、60名台を維持しています。地方公務員が54名、国家公務員

が6名となっています。

民間企業就職者は、昨年の311名から、344名と33名も大幅に増加しました。内訳では、卸小売業、金融保険業、サービス業などで増えていますが、企業就職者の増加は前述した、過去最高の就職率を反映した数字となっています。

さらに、大学院などへの進学者は、40名となっており、卒業生のうち、就職決定者と大学院等への進学者を合わせると、4年連続で8割を超えました。

以上、昨年度の就職・進学等の状況について簡単にまとめました。就職率を報じた新聞記事によれば、売り手市場を反映して就職率はよくなっていますが、経団連の指針見直しによる採用スケジュール変更で、就職活動の長期化も指摘されました。来年3月卒業の学生の就活では、またスケジュールの

平成28年3月卒業生 就職先一覧

■初等教育学科

企業

京都きもの友禅 株式会社
キヤノンマーケティング
ジャパン 株式会社
株式会社 いち和
株式会社 THINK フィット
ネス（ゴールドジム）
株式会社 秀英予備校
株式会社 西日本シティ銀行
社会福祉法人 夢工房
静明 株式会社
遠鉄タクシー 株式会社
社会福祉法人 ひかりの里
セントラルスポーツ 株式
会社
児童養護施設 希望の家
（社会福祉法人 共生会）
株式会社 バナホーム山梨
株式会社 山梨中央銀行
千葉県 NPO 法人
株式会社 富山第一銀行
東プレ 株式会社
株式会社 エス・ピー・ディー
明治
株式会社 テクニカルアン
サー
社会福祉法人 敬愛学園
株式会社 エフ・ディ・シー・
フレンズ
合資会社 親湯温泉
山梨県民信用組合
島根県国民健康保険団体連
合会
葉隠勇進 株式会社
エイチアールワン株式会社
三菱UFJ不動産販売 株式
会社
社会福祉法人 敬愛学園
株式会社 レオパレス21
リゾートトラスト 株式会社
WDB 株式会社
株式会社 山梨中央銀行
国際自動車 株式会社
株式会社 愛媛銀行
株式会社 サン

教員

札幌市教育委員会
宮城県教育委員会

仙台市教育委員会
山形県教育委員会
寒河江市教育委員会
福島県教育委員会
栃木県教育委員会
群馬県教育委員会
太田市教育委員会
埼玉県教育委員会
さいたま市教育委員会
千葉県教育委員会
東京都教育委員会
町田市教育委員会
神奈川県教育委員会
横浜市教育委員会
山崎市教育委員会
相模原市教育委員会
新潟県教育委員会
富山県教育委員会
石川県教育委員会
福井県教育委員会
山梨県教育委員会
丹波市教育委員会
大月市教育委員会
小菅村教育委員会
身延町教育委員会
笛吹市教育委員会
岐阜県教育委員会
静岡県教育委員会
焼津市教育委員会
富士宮市教育委員会
静岡県教育委員会
浜松市教育委員会
愛知県教育委員会
稲沢市教育委員会
三重県教育委員会
福知山市教育委員会
大阪市教育委員会
岡山県教育委員会
広島県教育委員会
広島市教育委員会
山口県教育委員会
徳島県教育委員会
香川県教育委員会
愛媛県教育委員会
福岡県教育委員会
熊本県教育委員会
鹿児島県教育委員会
沖縄県教育委員会
私立学校ハノイ日本人学校

公務員

市川三郷町役場
射水市役所
高岡市役所
茅ヶ崎市役所
都留市役所
都留市役所
富士宮市役所
札幌市役所
御島町役場
宮崎県役所

■国文学科

企業

株式会社 木下の介護
富士観光開発 株式会社
株式会社 東海日動パート
ナース EAST
ジャパニライフ 株式会社
株式会社 サンキョー（甲
斐ゼミナール）
学校法人 文教大学学園
株式会社 エーツ
群馬県農業共済組合
新潟県企業
社会福祉法人 むそう
株式会社 名鉄レストラン
社会福祉法人 共生会
全国農業協同組合中央会
株式会社 フジコー
株式会社 津具屋（津具屋グ
ループホールディングス）
一般財団法人 石川県予防
医学協会
株式会社 シンコー警備保障
株式会社 星野リゾート
株式会社 ボルテージ
株式会社 ジューコ
住友生命保険 相互会社
株式会社 貴和製作所
MXモバリング 株式会社
株式会社 太平社
三州紙業 株式会社
株式会社 エス・ディー・シー
名古屋木材 株式会社
はるやま商事 株式会社
株式会社 アステクノス
株式会社 シナノシステムエ
ンジニアリング
光ヶ丘クリニック
マックスバリュ東海 株式
会社
株式会社 八十二銀行
住友生命保険 相互会社

安達総合企画 株式会社
株式会社 サンズ・ホール
ディングス
株式会社 長倉製作所
株式会社 貴和製作所
株式会社 ハローホーム
P.V.K. 株式会社
南山商事 株式会社
株式会社 FUKUMIMI
フルーツ山梨農業協同組合
株式会社 サンニチ印刷
松定プレジジョン株式会社
株式会社 清水銀行
株式会社 ウェルボン
株式会社 金沢環境サービ
ス公社
ブックオフコーポレーショ
ン 株式会社
日本年金機構
株式会社 アサンテ
株式会社 アイキューブ
株式会社 メガネのハラダ
株式会社 山陰合同銀行
もったいない本舗
国際医療福祉大学・高邦会
グループ
株式会社 大塚商会
株式会社 D.T.S

教員

岩手県教育委員会
宮城県教育委員会
茨城県教育委員会
栃木県教育委員会
埼玉県教育委員会
千葉県教育委員会
相模原市教育委員会
東京都教育委員会
新潟県教育委員会
石川県教育委員会
山梨県教育委員会
山崎市教育委員会
北村教育委員会
岐阜県教育委員会
愛知県教育委員会
神戸市教育委員会
和歌山県教育委員会
私立学校学校法人 置愛女
子中学・高等学校
専修学校松戸中学校・高等
学校
富士学苑高等学校

公務員

防衛省陸上自衛隊

国立国会図書館
安曇野市役所
嵐山町役場
伊那市役所
射水市役所
鴨川市役所
川崎市役所
三集市役所
伊達市役所
富士宮市役所
富士吉田市役所
北杜市役所
松川町役場
三穂町役場

■英文学科

企業

株式会社 イーオン
株式会社 星野リゾート
株式会社 山梨中央銀行
前進学教室
株式会社 ファーストリテ
イリグ
ソフトバンクコマース &
サービス 株式会社
株式会社 De N A トラベル
6吹興産 株式会社
株式会社 インテリジェンス
松本ハイランド農業協同組
合
ANAエアポートサービス
株式会社
株式会社 京業銀行
東京言語教育学院
株式会社 富士レックホテ
ル
株式会社 日本アシスト
北海道旅客鉄道株式会社
神興農産協同組合
住友生命保険 相互会社
株式会社 伊予銀行
株式会社 ホスピタリティ
オペレーションズ
株式会社 ドン・キホーテ
株式会社 セブテンパー
株式会社 古名屋
株式会社 ブルーアース
日本航空 株式会社
株式会社 サンキョー（甲
斐ゼミナール）
株式会社 山崎亭 うぶや
トヨタローラ 山梨株式
会社
株式会社 コンサルティン

ダ・エムアンドエス
社会福祉法人 松嶺療養園
ふじやまビル
株式会社 山梨中央銀行
伊藤忠食品株式会社
株式会社 システムシェ
アード
金剛 株式会社
株式会社 シン・コーポ
レーション
株式会社 旅工房
ジャパンフード 株式会社
株式会社 タイクニウム 株式
会社
三井倉庫ロジスティック
株式会社
スターツケアサービス 株
式会社
L.I.V.E 株式会社
特定非営利活動法人 Future
Dream Achievement
お菓子庵 庵子月
株式会社 サン・プランナー
セキスイハイム信越 株式
会社
アニコム損害保険 株式
会社
生活協同組合コープさっぽ
ろ 株式会社
学校法人 近畿大学
株式会社 羽田エアポート
エンタープライズ
旭ダイヤモンド工業 株式
会社
旭化成 株式会社
株式会社 真
株式会社 童夢
株式会社 シャトレーゼ
東京多摩青果 株式会社
株式会社 タクニウム・プラン
ニング
日経工業 株式会社
株式会社 清水銀行
東日本旅客鉄道 株式会社
富士河口湖温泉郷 湖南荘
アパホテル 株式会社
マンダリン・オリエンタル
東京株式会社
株式会社 ボンパドウ
アイトップス 株式会社
株式会社 イーオン
株式会社 大塚商会
日本郵政 株式会社
株式会社 旅工房
株式会社 八十二銀行

見直しが行われます。

そのような状況の中で、教員、公務員、企業のそれぞれの分野で、学生の

皆さんの希望にかなう就職が実現できるように、キャリア支援センターでは、今年度も様々な就職関連行事を通して

支援していきますので、積極的に参加・活用してください。

表 1 平成 18 ～ 27 年度の就職関係データ

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
卒業者数A	675	642	683	667	717	761	735	757	771	754
就職希望者数B	516	490	521	511	530	593	567	600	612	631
就職決定者数C	488	467	492	459	437	544	545	559	581	605
大学院等進学者数D	44	47	53	53	51	57	45	50	45	40
就職率C/B×100	94.57	95.31	94.43	89.82	82.45	91.70	96.12	93.17	94.93	95.88
進路決定率(C+D)/A×100	78.81	80.06	79.80	76.76	68.06	78.98	80.27	80.45	81.19	85.54
内訳										
企業	315	309	315	252	217	297	310	324	311	344
教員	136	138	153	169	176	193	178	190	207	201
公務員	37	20	24	38	44	54	57	46	63	60

表 2 平成28年 3 月卒業者（前期卒を含む）の就職先別人数

A

教員	小学校	135
	中学校	35
	高等学校	26
	私立学校	5
	教員合計	201

B

公務員	国家公務員	6
	地方公務員	54
	公務員合計	60

C

民間企業	農業	3
	建設業	8
	製造業	28
	電気・ガス熱提供業	1
	運輸通信業	22
	卸小売業	69
	金融保険業	46
	不動産業	14
	サービス業	153
	合 計	344

D

公立学校都道府県別採用数（臨採含む）

北海道・札幌市	2	静岡県	18
岩手県	2	静岡県	4
宮城県・仙台市	4	浜松市	1
山形県	3	愛知県	10
福島県	4	三重県	2
茨城県	4	京都府	1
栃木県	3	大阪府	1
群馬県	2	堺市	2
埼玉県	3	兵庫県	1
さいたま市	1	神戸市	1
千葉県・市	10	和歌山県	1
東京都	16	島根県	1
神奈川県	9	岡山県・市	1
横浜市	2	広島県・市	2
川崎市	2	山口県	1
相模原市	8	徳島県	3
新潟県	5	香川県	1
富山県	5	愛媛県	2
石川県	5	福岡県	1
福井県	2	熊本県	2
山梨県	31	鹿児島県	2
長野県	7	沖縄県	3
岐阜県	5		
合計			196

J F E ライフ 株式会社
株式会社 エイチ・アイ・エス
株式会社ローヤル企画
東京空港交通 株式会社
株式会社 ジャステック
株式会社 T T C
株式会社 エイチ・アイ・エス 富山営業所

教員
北海道教育委員会
茨城県教育委員会
千葉県教育委員会
東京都教育委員会
神奈川県教育委員会
相模原市教育委員会
新潟県教育委員会
山梨県教育委員会
静岡県教育委員会
愛知県教育委員会
兵庫県教育委員会
鳥根県教育委員会

公務員
神奈川県警察本部
千葉県警察本部
都留市役所
浜松市役所

■比較文化学科

企業
株式会社 ワークスアブリケーションズ
奥野田葡萄酒醸造 株式会社
株式会社 新日本海新聞社
株式会社 シュティヤナセ
株式会社 電通テック
株式会社 J A L スカイ
山中湖情報創造館
株式会社アドヴァンスト・インフォメーション・デザイン
中央工機 株式会社
株式会社 オリエンタルランド
株式会社 インソーズ
ユニタインドグローブ株式会社
株式会社日本エム・ディ・エム
株式会社 ゆうちょ銀行
株式会社 ガリバーインターナショナル

山梨信用金庫
株式会社 クスリのサンロード
株式会社 税務研究会
株式会社 システムシェアード
首都高バトロール 株式会社
マルホ発條工業 株式会社
株式会社 トブコン
都留信用組合
オーシー・技研 株式会社
株式会社 ムーブ
岩崎産業 株式会社
山梨信用金庫
株式会社 松浦機械製作所
株式会社 江崎新聞店
多摩信用金庫
有限会社 太田貿易
エステート住宅産業 株式会社
半田信用金庫
日本郵政 株式会社
東京ガイズミエナジー 株式会社
株式会社 I 2 C
古本買取通販ドットコム 株式会社
ANA 新千歳空港 株式会社
株式会社 ビームス
株式会社 ニトリ
株式会社 M O A
株式会社 ケーヨー
株式会社 日本ワークス
日本航空 株式会社
全国農業協同組合連合会
ノア・グローバル・コーポレーション 株式会社
株式会社 すかいらく
長野県労働金庫
株式会社ディーエイチシー
株式会社 ぜん
株式会社 ホンダクリオ富士
株式会社 エイム・ソフト
リゾートトラスト 株式会社
社大和証券 株式会社
A N A ホールディングス 株式会社
株式会社 プロトコーポレーション
株式会社 ヒオキ楽器 東信事業部
キタムラ機械 株式会社
株式会社 ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング

ンダ
株式会社 ユニバース
SMBC 日興証券 株式会社
株式会社 日立システムズ
新日本コンピュータマネジメント 株式会社
株式会社 ホットマン
チムニー 株式会社
日立物流ファインネクス
株式会社 エプロ
都留信用組合
株式会社 ジョイフル
西田建設 株式会社
カナボウ化粧品販売株式会社
株式会社 ベアーズ
ディアンドデパートメント 株式会社
株式会社 かんぽ生命保険
株式会社 アルペン
日本郵政 株式会社
京都民主医療機関連合会
リゾートトラスト 株式会社
株式会社 ローソンマート
イオンスーパーセンター 株式会社
株式会社 ヒューマンリンク 株式会社
社会福祉法人 星谷会
人の森 株式会社
株式会社 テレビ山梨
有限会社 岩下産業
株式会社 N K エージェント
三浦工業株式会社
岩手県信用保証協会
株式会社 日本オープンシステムズ
株式会社 ハーバー研究所
トヨタホーム名古屋信州カンパニー 株式会社
株式会社 マイクロメイト

株式会社 山梨中央銀行
株式会社 近藤組
MH ソリューションズ株式会社
山日 Y B S グループ
株式会社 ファーストリテ
イリテック
静岡ターミナル開発 株式会社
サクラ工業 株式会社
株式会社 ワークスアブリケーションズ
株式会社 ヨドバシカメラ
相模鉄道 株式会社
株式会社 ユニバース
株式会社 くらコーポレーション
農業生産法人 有限会社 井上誠耕園
国際自動車 株式会社
株式会社 ワイズギア
株式会社 すかいらく
株式会社 山梨中央銀行
長野県労働金庫
一関信用金庫
株式会社 知久
株式会社 エスエスワイ
花王カスタマーマーケティング 株式会社
株式会社 舞浜コーポレーション
株式会社 島忠
株式会社 トータルシステムデザイン
独立行政法人 国立病院機構 北海道東北グループ
武田機工株式会社
損害保険ジャパン日本興亜
株式会社 山梨支店
内藤証券 株式会社
三和交通 株式会社
株式会社 U R コミュニティ
公益財団法人 山梨厚生会
山梨厚生病院
松岡利蔵 株式会社
社会福祉法人 甘本山学園
日本信号 株式会社
日本郵便 株式会社
株式会社 十六銀行
株式会社 愛媛銀行
社会福祉法人 山梨県社会福祉協議会
株式会社 東海放送会館
日産プリンス静岡販売 株式会社

教員
東京都教育委員会

公務員
国立大学法人 広島大学
兵庫県庁
山梨県庁

■社会科学部
現代社会専攻
企業

株式会社
教員
山形県教育委員会
茨城県教育委員会
神奈川県教育委員会
川崎市教育委員会
富山県教育委員会
石川県教育委員会
山梨県教育委員会
長野県教育委員会
静岡県教育委員会
愛知県教育委員会
徳島県教育委員会

公務員
国立大学法人 北海道大学
防衛省航空自衛隊
東京国税局
池田町役所
伊東市役所
大阪市役所
大月市役所
神奈川県庁
神奈川県庁
警視庁
甲州市役所
小菅村役所
垂水市役所
東京都庁
長野県警察本部
新潟市役所
沼津市役所
福島県警察本部
北海道庁
輪之内町役所

環境・コミュニティ創造専攻
企業
株式会社 エイチ・アイ・エス
株式会社 常陽銀行
日本空港ビルディング 株式会社
合資会社 バンギャ
東京ガス山梨 株式会社
富士急行 株式会社
株式会社 ゼロワン
トヨハン 種田 株式会社
株式会社 ワールドレジデ
株式会社 百五銀行

公務員
阿南市役所
警視庁
都留市役所
東郷町役所
八王子市役所
山梨県警察本部
横浜市役所

「学生による授業アンケート」の結果から

FD委員会委員長 平野耕一



○授業アンケートについて

本学では、前期末と後期末に「学生による授業アンケート」を行っています。この稿では、2015年度の授業アンケートの結果を総括します。

1. 授業アンケート実施率

表1は、授業アンケートを実施して頂いた教員の割合を示したものです。ここ3年間で実施率が明らかに上がってきました。授業アンケートは、全ての授業担当者（専任・特任・非常勤講師）に必ず1科目以上の実施をお願いしています。今後は100%を目指していきたいと思っています。

2. 授業を履修した理由

表2は、授業アンケートのセクションA「この授業を履修した主な理由」の結果

です。「必修科目だった」、「この時間が空いていた」という消極的な理由も目立ちます。大学は義務教育ではなく自らの意志で学ぶ場所です。授業で指定された教科書だけではなく、内容に関連して自ら文献を探して調べていくという探求的な学習の姿勢が必要になってくると思います。

3. 経年変化

最近3年間の全体平均点の経年変化を表3で見たいと思います。

対象の集団が変わっていくので、以下は正確な統計ではないのですが、単純に数値を見ると、項目4の「予習・復習をしましたか」について、3年間で点数が若干上がってきています。但し、他の項目と比べるとかなり点数が低いので、予習・復習の

表1 授業アンケート実施率

年度	2013年度	2014年度	2015年度
専任教員	75.0%	96.1%	97.7%
非常勤講師	58.5%	67.7%	75.9%

※前期・後期を合わせたもの

表2 この授業を履修した主な理由 (2015年度)

(複数回答可)

設問 理由	前期 (%)	後期 (%)
1. 必修科目だった	46.7	45.5
2. シラバスを読んで興味を持った	13.6	14.9
3. 授業の分野に興味があった	15.6	16.7
4. よい授業と聞いていた	3.5	3.6
5. 将来役立つと思った	9.8	9.0
6. 単位を取りやすいと思った	1.9	1.8
7. この時間が空いていた	7.3	7.2
8. 無効回答	1.5	1.3

表3 経年変化 (全体平均点)

項	設問文	2013年度		2014年度		2015年度	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
B	あなた自身の授業への取り組みについて	セクション平均点					
1	あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。80%程度(3回程度の欠席)を「普通」とし、5段階で答えてください。	4.29	4.13	4.32	4.14	4.35	4.19
2	事前にシラバスを読み、授業の目的、目標、内容を理解して臨みましたか。	3.73	3.78	3.80	3.79	3.79	3.84
3	授業に出席したときは、授業に集中し、熱心に取り組みましたか。	4.02	4.01	4.06	4.01	4.04	4.05
4	この授業について、予習あるいは復習をしましたか。十分に行ったを5、全く行かなかったを1とし、5～1の範囲で答えてください。	3.07	3.10	3.11	3.13	3.15	3.20
5	授業の内容をよく理解できましたか。	3.83	3.88	3.90	3.92	3.88	3.93
C	授業の進め方について	セクション平均点					
8	説明の仕方あるいは指示の仕方は、理解しやすかったですか。	4.09	4.15	4.15	4.19	4.09	4.18
9	話し方(声の大きさや明瞭さなど)や板書は、わかりやすかったですか。	4.07	4.13	4.14	4.17	4.10	4.20
10	プリント、ビデオ、教科書など教材の使われ方は授業内容の理解を助けるものでしたか。	4.15	4.21	4.19	4.23	4.15	4.23
11	学生の反応や理解度に応じた授業の進め方でしたか。	3.98	4.04	4.04	4.07	3.99	4.10
D	授業環境について	セクション平均点					
12	クラスの学生数、教室の設備、備品などは適切な状態でしたか。	4.09	4.13	4.17	4.17	4.15	4.18
E	授業内容について	セクション平均点					
13	授業内容はわかりやすく整理されていましたか。	4.13	4.18	4.17	4.20	4.14	4.22
14	授業の内容は、知的な刺激があり、興味深いものでしたか。	4.10	4.18	4.17	4.22	4.14	4.23
15	授業の内容・構成は、シラバスで書かれた目標に沿っていましたか。	4.07	4.11	4.13	4.14	4.10	4.18
16	授業のレベル(難易度)は適切でしたか。難しすぎたを5、易しすぎたを1とし、5～1の範囲で答えてください。	3.46	3.46	3.46	3.46	3.43	3.48
F	授業成果について	セクション平均点					
17	この授業を履修したことで、この分野に関する新しい知識や考え方、技能などを修得できましたか。	4.14	4.20	4.19	4.24	4.17	4.24
18	この授業を履修したことで、ものの見方や興味・関心を広げることができましたか。	4.11	4.20	4.18	4.23	4.16	4.24
19	総合的に考えて、この授業を履修して有意義であったと思いますか。	4.17	4.25	4.24	4.27	4.20	4.28

大切さを再確認して欲しいと思います。予習を徹底に行えば、授業中は疑問点に集中でき、その場で質問して解決すると効果的です。

4. 授業形態比較

表 4 は、「講義」、「外国語」、「実習・実験・実技」、「演習」のそれぞれの授業形態別の比較です。比較的、「実習・実験・実技」

と「演習」の点数が高く、「講義」と「外国語」の点数が低い傾向があるようです。

5. 学年比較

表 5 は、学年別の比較です。特に 1 年生は、高校の授業と大学の授業とのギャップを感じる人もいるかもしれません。勉強の仕方等で迷った時には、その

科目の教員に“勉強の仕方”を聞いてみることをお勧めします。

○授業改善に向けて

今回の授業アンケートで、私も自身で担当している授業の改善に向けて、貴重な意見を頂きました。この声を基にして、もっと分かり易い授業になるよう、改善していきたいと思います。

表 4 授業形態比較 (2015 年度)

項	設問文	講義		外国語		実習・実験・実技		演習	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
B	あなた自身の授業への取り組みについて	3.76	3.77	3.96	3.97	4.16	4.13	4.04	4.10
1	あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。80%程度(3 回程度の欠席)を「普通」とし、5 段階で答えてください。	4.30	4.15	4.38	4.29	4.57	4.37	4.50	4.28
2	事前にシラバスを読み、授業の目的、目標、内容を理解して臨みましたか。	3.76	3.82	3.72	3.77	4.01	4.02	3.90	4.03
3	授業に出席したときは、授業に集中し、熱心に取り組みましたか。	3.93	3.96	4.12	4.19	4.53	4.53	4.33	4.42
4	この授業について、予習あるいは復習をしましたか。十分に行ったを 5、全く行わなかったを 1 とし、5～1 の範囲で答えてください。	3.02	3.10	3.68	3.57	3.36	3.36	3.29	3.54
5	授業の内容をよく理解できましたか。	3.79	3.85	3.88	4.01	4.35	4.35	4.17	4.24
C	授業の進め方について	4.02	4.11	4.11	4.32	4.38	4.47	4.26	4.39
8	説明の仕方あるいは指示の仕方は、理解しやすかったですか。	4.02	4.12	4.11	4.29	4.42	4.54	4.28	4.38
9	話し方(声の大きさや明瞭さなど)や板書は、わかりやすかったですか。	4.02	4.12	4.17	4.37	4.47	4.56	4.25	4.41
10	プリント、ビデオ、教科書など教材の使われ方は授業内容の理解を助けるものでしたか。	4.12	4.20	4.15	4.35	4.24	4.30	4.28	4.41
11	学生の反応や理解度に応じた授業の進め方でしたか。	3.91	4.02	4.03	4.28	4.37	4.47	4.22	4.37
D	授業環境について	4.07	4.09	4.27	4.42	4.47	4.51	4.30	4.44
12	クラスの学生数、教室の設備、備品などは適切な状態でしたか。	4.07	4.09	4.27	4.42	4.47	4.51	4.30	4.44
E	授業内容について	3.91	3.98	3.95	4.07	4.23	4.28	4.07	4.18
13	授業内容はわかりやすく整理されていきましたか。	4.08	4.15	4.17	4.35	4.48	4.53	4.30	4.38
14	授業の内容は、知的な刺激があり、興味深いものでしたか。	4.09	4.19	4.08	4.24	4.40	4.48	4.32	4.44
15	授業の内容・構成は、シラバスで書かれた目標に沿っていましたか。	4.05	4.13	4.06	4.22	4.38	4.45	4.25	4.34
16	授業のレベル(難易度)は適切でしたか。難しすぎたを 5、易しすぎたを 1 とし、5～1 の範囲で答えてください。	3.41	3.46	3.48	3.46	3.65	3.63	3.40	3.57
F	授業成果について	4.14	4.21	4.10	4.24	4.46	4.51	4.36	4.49
17	この授業を履修したことで、この分野に関する新しい知識や考え方、技能などを修得できましたか。	4.13	4.20	4.08	4.20	4.47	4.50	4.36	4.50
18	この授業を履修したことで、ものの見方や興味・関心を広げることができましたか。	4.13	4.21	4.06	4.19	4.38	4.45	4.34	4.47
19	総合的に考えて、この授業を履修して有意義であったと思いますか。	4.15	4.23	4.18	4.32	4.53	4.57	4.39	4.51

表 5 学年比較 (2015 年度)

項	設問文	1 年		2 年		3 年		4 年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
B	あなた自身の授業への取り組みについて	3.90	3.89	3.81	3.83	3.82	3.82	3.74	3.75
1	あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。80%程度(3 回程度の欠席)を「普通」とし、5 段階で答えてください。	4.64	4.39	4.26	4.17	4.25	4.06	3.63	3.71
2	事前にシラバスを読み、授業の目的、目標、内容を理解して臨みましたか。	3.73	3.82	3.79	3.86	3.84	3.88	3.86	3.79
3	授業に出席したときは、授業に集中し、熱心に取り組みましたか。	4.09	4.09	3.98	4.01	4.01	4.05	4.10	4.08
4	この授業について、予習あるいは復習をしましたか。十分に行ったを 5、全く行わなかったを 1 とし、5～1 の範囲で答えてください。	3.14	3.23	3.15	3.17	3.14	3.18	3.15	3.18
5	授業の内容をよく理解できましたか。	3.88	3.92	3.85	3.92	3.89	3.95	3.97	3.97
C	授業の進め方について	4.05	4.17	4.04	4.17	4.14	4.18	4.20	4.22
8	説明の仕方あるいは指示の仕方は、理解しやすかったですか。	4.07	4.18	4.04	4.18	4.15	4.19	4.21	4.19
9	話し方(声の大きさや明瞭さなど)や板書は、わかりやすかったですか。	4.06	4.20	4.06	4.18	4.16	4.21	4.20	4.25
10	プリント、ビデオ、教科書など教材の使われ方は授業内容の理解を助けるものでしたか。	4.11	4.22	4.10	4.22	4.22	4.24	4.27	4.30
11	学生の反応や理解度に応じた授業の進め方でしたか。	3.95	4.09	3.96	4.10	4.05	4.10	4.10	4.14
D	授業環境について	4.23	4.28	4.08	4.11	4.13	4.13	4.09	4.15
12	クラスの学生数、教室の設備、備品などは適切な状態でしたか。	4.23	4.28	4.08	4.11	4.13	4.13	4.09	4.15
E	授業内容について	3.93	4.04	3.91	4.00	3.99	4.03	4.06	4.05
13	授業内容はわかりやすく整理されていきましたか。	4.13	4.23	4.08	4.19	4.18	4.22	4.27	4.22
14	授業の内容は、知的な刺激があり、興味深いものでしたか。	4.10	4.22	4.10	4.21	4.19	4.26	4.28	4.29
15	授業の内容・構成は、シラバスで書かれた目標に沿っていましたか。	4.08	4.18	4.03	4.14	4.15	4.20	4.26	4.24
16	授業のレベル(難易度)は適切でしたか。難しすぎたを 5、易しすぎたを 1 とし、5～1 の範囲で答えてください。	3.42	3.53	3.44	3.46	3.42	3.44	3.44	3.45
F	授業成果について	4.15	4.24	4.13	4.23	4.24	4.30	4.31	4.30
17	この授業を履修したことで、この分野に関する新しい知識や考え方、技能などを修得できましたか。	4.15	4.23	4.12	4.21	4.23	4.29	4.31	4.28
18	この授業を履修したことで、ものの見方や興味・関心を広げることができましたか。	4.11	4.22	4.12	4.22	4.24	4.29	4.29	4.29
19	総合的に考えて、この授業を履修して有意義であったと思いますか。	4.19	4.28	4.15	4.24	4.25	4.32	4.35	4.33

講演会だより

平成27年度 第2回文大名画座 映画『あん』上映会 原作者のドリアン助川さんを迎え、 大盛況のうちに終了

平成28年3月18日(金) 開催
講演者 ドリアン助川氏

2016年3月18日(土) 午後5時から、2101教室にて地域交流研究センターと比較文化学会の共催により、文大名画座として映画『あん』の上映会が開催されました。映画『あん』は、1997年に第50回カンヌ国際映画祭 カメラ・ドール(新人監督賞)を『萌の朱雀』で受賞された頃に比較文化学会で講演にお招きしたことがある河瀬直美監督による作品です。さらに、午後7時から1時間にわたって原作者のドリアン助川さんによる講演がありました。名画座は今年度2回目の開催となりましたが、卒業式を控えた時期でもあり、残念ながら学生が比較的少なくなりました。しかし、近隣にお住まいのご来場者を多く迎えられ、会場では目頭をぬぐう姿も見えました。

昨年、全国ならびに世界中での上映がおこなわれたばかり

の「あん」の上映会ならびに講演会が実現できたのは、配給会社「エレファントハウス」代表の増田英明さんのご厚意からでした。増田さんのお連れ合いは偶然にも初等教育学科の卒業生で、ご自身が学生時代に大学周辺に遊びにみえたこともあったこともあり、特別のご配慮をいただきました。当日、増田さんは香港・マカオへの出張からの帰国に関わらず、成田空港から駆けつけていただきました。

講演会では、ドリアン助川さんになぜ小説『あん』を書くことになったかを中心にお話をいただきました。参加できなかった方には、原作者が作品に込めたメッセージとして、『TOKYO人権』第66号(平成27年5月27日発行)に掲載されたインタビュー「人はなぜ生まれ、どう生きるべきなのか 小説『あん』がハンセン病を通じて



2016年2月に新北市廻龍にある樂生院をご案内いただいた茆萬枝さんに取り壊された施設を復元した模型。

問いかけるもの」http://www.tokyo-jinken.or.jp/jyoho/66/jyoho66_interview.htmを併せて読んでもらおうとよいでしょう。原作と映画の大きなテーマは「ハンセン病元患者の現在」ですが、本学学生が抱きがちな「社会に役に立てなければ意味がない」という思い込みを解くお話となっています。私がドリアン助川さんをお呼びしたかったのも、この作品が現代に生きる人すべてに響く普遍性があると思ったからです。

なお、私が2000年に台湾に留学した頃、ハンセン病元療養所に友人たちが取材やボランティアに行っていました。台北と桃園国際空港を結ぶモノレール計画に伴い、施設は立ち退きに瀕していました。当時、「俺たち、どこに行きようもないんだよ」との元患者さんのつぶやきに応えた台湾の大学生たちが保全運動を展開していました。その結果、日本にも残っていない施設の補修につなげたことも、今回の上映会と講演では時間がありませんでしたが、お伝えしたかったことです。

最後になりましたが、上映会と講演会の実現にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

(比較文化学科教授 山本芳美)

講師紹介

ドリアン 助川

詩人、作家、道化師。1962年東京都生まれ。

大学卒業後、放送作家などを経て、1990年「叫ぶ詩人の会」を結成し、2014年ポプラ社より小説『あん』を出版。大反響を呼び、2015年に映画化される。明川哲也の筆名でも、『メキシコ人はなぜハゲないし、死なないのか』(文春文庫)、『花鯛』(文藝春秋社)など著書多数。朝日新聞の「悩みのレッスン」、「生きるレッスン」などの回答者としても知られ、現在、ニッポン放送系列『テレフォン人生相談』でパーソナリティを務めている。



講演会だより

都留文科大学大学院 創立20周年記念座談会

平成28年2月29日(月) 開催

都留文科大学に大学院が設置されて 20 周年を記念し、中地幸研究科委員長を司会として、大学院設置にご尽力いただいた松本四郎名誉教授、および立ち上げ期の研究科委員長としてご苦労なされた高橋宏幸名誉教授に、大学院設置の経緯および、設置時のさまざまな課題を語っていただいた。

松本先生は最初の大学院研究科長としてご活躍なされた。まず、大学院の設置の意義であるが、白尾恒吉学長より大学院を設置することにより、大学全体の研究・教育の質的向上をはかるという意義が当時示されている。

松本先生の課題意識は、大学内や大学周辺に学生の居場所がなく、教員も都内在住者が多いためすぐに帰ってしまうことで、学生と教員との学術的なつながりが薄くなってしまふことである。課外での学生同士での議論の場や、教員と学生がテーマを共有し、テーマについて学問的な議論をたたかわせる場が都留文科大学には必要であった。

大学院設置時に苦労した点は教員審査である。教員の業績を集め厳しく審査することで大学院での研究の質を高め



座談会の様子

ることができた。

今後大学院に求める姿として、白尾学長が示した「研究・教育の質的向上」の実質化を求められた。ゼミとは別に研究テーマが異なる学生同士が課題や成果を共有することで、新しい研究成果や都留文科大学独自の研究を生むような研究環境を整えていきたいと語られた。

高橋先生は松本先生の定年を受けて研究科長となった。高橋先生が重ねておっしゃったことは、「大学院と文学部は違う」ということであった。各学科と、大学院の専攻は問題意識に共通する部分があったとしても、大学院は「研究」をおこなっていく場であり、教育に重点が置かれる学部とはそこでの活動に大きな違いが存在する。そのためには、教員の質を高い水準で確保・維持すること、大学院としての独立性・自律性が重要であると語られた。今後の大学院に対して高橋先生からは、現職教員の内地留学の場として都留文科大学大学院が選ばれようになっ



座談会でお話される松本四郎名誉教授（右）と高橋宏幸名誉教授（左）

とである。都留文科大学大学院は今現場で教育をおこなっている現職教員が、その力量を高めることができるような場となること必要であり、大学院での質の高い研究を社会に還元していくためにも困難を乗り越えていただきたいと静かに語られた。

筆者は社会人大学院にて学位を取得して教員となった経緯から、高橋先生のおっしゃる、現職教員の研究の場としての大学院の姿に強く共感する。また社会人大学院にはさまざまな職や職位で働く方が一緒に学び、研究をおこなっていた。その中で他の職種で働く方と共同で研究することにより、自分の中に新しい視点、より俯瞰した視点を育てることができた。松本先生のおっしゃる学生、教員同士がテーマを共有し、研究を高める場に都留文科大学大学院が次の 10 年、20 年に向けて成長していき、大学の教育、研究の先端として重要な場となるであろうと感じた座談会であった。

(情報センター 准教授
日向良和)

文大だより

平成27年度 都留文科大学卒業式

平成28年3月22日（火）、午前11時より都の杜うぐいすホールにて、平成27年度 都留文科大学卒業式を開催いたしました。当日は、桜のつばみもふくらみ、春色にわかに深まり始めるなか、744名（学部、専攻科、大学院を含む）がそれぞれの道へ旅立ちました

式典は理事長の「時代は常に、若者に苦難と試練をあたえるものですが、皆さん方には、不屈の精神で困難に耐え、乗り越えていただきたいと思います。」との挨拶から始まり、卒業証書・修了証書・学位記などが各学科の代表者に授与されました。その後、学長より「希望を持ち続け、学んだ専門知識をもとにしてさらに様々な知識を求め続け、その知識をつないで日々「もっとよい方法はないか」と探って、人々と協力しながら生きていって欲しいと



学位記授与

切に願います。」と卒業生・修了生に対する「送ることば」が述べられました。

そして最後に、卒業生代表の比較文化学科 井出あゆみさんより「私たちは、大学生活を通して、挑戦することに自信を得ることができました。多くの人とのつながりを築くこともできました。これらを糧に、新しい道を歩んでいこうと思います。」と語られ、会場からは大きな拍手が湧き上がりました。

本学の吹奏楽部並びに合唱団による学生歌「花のかげ」が演奏されるなか、式は無事終了いたしました。



式典の様子

平成27年度
卒業生・修了者数

■文学部	■専攻科
初等教育学科……………201名	文学専攻……………4名
国文学科……………129名	■大学院
英文学科……………136名	臨床教育実践学……………1名
社会学科	国文学……………3名
現代社会専攻……………99名	英語英米文学……………4名
環境・コミュニティ創造専攻……………66名	比較文化……………3名
比較文化学科……………113名	社会学地域社会研究……………8名

平成28年度
入学試験状況

平成28年度 推薦入学試験状況		
学科名	受験者数	合格者数
初等教育学科	177	89
初等教育学科（センター利用）	85	21
初等教育学科（芸術体育系・自然環境科学系）	26	19
国文学科	170	65
英文学科	109	44
社会学科	現代社会専攻	102
	現代社会専攻（センター利用）	53
	環境・コミュニティ創造専攻	47
	環境・コミュニティ創造専攻（活動評価型推薦）	14
比較文化学科	78	48
比較文化学科（センター利用）	58	28

平成28年度 編入試験状況			平成28年度 前期日程入学試験状況			平成28年度 中期日程入学試験状況		
学科名	受験者数	合格者数	学科名	受験者数	合格者数	学科名	受験者数	合格者数
初等教育学科	23	8	初等教育学科	72	31	初等教育学科	234	100
国文学科	13	5	国文学科	162	62	国文学科	436	91
英文学科	17	4	英文学科	75	46	英文学科	337	99
社会学科	現代社会専攻	12	社会学科	現代社会専攻	89	社会学科	現代社会専攻	191
	環境・コミュニティ創造専攻	7		環境・コミュニティ創造専攻	36		環境・コミュニティ創造専攻	124
比較文化学科	16	5	比較文化学科	74	52	比較文化学科	311	63

文大だより

平成27年度 学生表彰制度による表彰

課外活動において特に顕著な成績を挙げたと認められる学生や団体、また、社会活動において社会的に高い評価を受けたと認められる学生や団体に対する学生表彰制度により、8名3団体が表彰されました。



表彰式の様子

被表彰者名	概要
陸上競技部 二宮 聡史	第84回日本学生陸上競技対校選手権大会 走幅跳 7位入賞、2015日本学生陸上競技個人選手権大会 走幅跳 5位入賞
陸上競技部 園田可南子	第84回日本学生陸上競技対校選手権大会 4×400m リレー 6位入賞
陸上競技部 出塚 千恵	第84回日本学生陸上競技対校選手権大会 4×400m リレー 6位入賞
陸上競技部 池嶋 祥子	第84回日本学生陸上競技対校選手権大会 4×400m リレー 6位入賞
陸上競技部 堅田 悠希	第84回日本学生陸上競技対校選手権大会 4×400m リレー 6位入賞
陸上競技部 上浦 千明	2015日本学生陸上競技個人選手権大会 800m 4位入賞
陸上競技部 中村 美咲	2015日本学生陸上競技個人選手権大会 800m 5位入賞
女子バレーボール部	山梨県社会人6人制バレーボール選手権 優勝、クラブカップ山梨県予選 優勝、クラブカップ関東ブロック大会 準優勝 他
合唱団	全日本合唱コンクール全国大会 7年連続金賞受賞、あわせて文部科学大臣賞 2年連続受賞
カンボジア教育支援団体 Plenty	ソロプチミスト日本財団平成27年学生ボランティア賞受賞
初等教育学科 武智気吹	第50回全国都道府県対抗自転車競技大会 青年男子の部 1km 2位、チームスプリントレース 3位（愛知県代表）

成績優秀者表彰が行われました

6月28日（火）に、昨年度（平成27年度）、学内において優秀な成績を修めた学生を表彰する「成績優秀者表彰式」が行われました。

対象となったのは、初等教育学科・国文学科・英文学科・社会学科・比較文化学科の2年生から4年生までの各学年で1名ずつ、計15名の成績優秀者と、各学年で2名ずつ、計30名の成績優秀者（今回は2名同点が1件あったので計31名）で、式典では横内理事長と福田学長からお祝いの言葉を頂き、続いて学長より表彰状が授与されました。

また対象者には、昨年度より創設された「成績優秀者奨学金」が給付されます。



表彰式の様子

文大だより

文部科学省「トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム」に本学学生が選出

官民協働海外留学支援制度「トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム」の第4期生として、本学から英文学科3年中澤涼介さんが派遣されることになりました。平成26年度に開始された本奨学金制度は、文部科学省、独立行政法人日本学生支援機構、及び約150社の民間企業・団体の協働で生まれた、グローバルに活躍する人材育成のための新規プログラムです。今回中澤さんは、厳しい審査を経て「世界トップランキング大学等コース」で選出され、9月から交換留学生としてアメリカ・カリフォルニア大学アーバイン校で社会学を学び、その後ロサンゼルスで移民サポートに関わるインターンシップを予定しています。金銭面のサポートだけでなく、留学という同じ志を持つ全国の仲間とのネットワークづくりが魅力の「トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム」。海外留学の夢の実現に向け、今後も多くの学生にチャレンジしていただければと思います。



英文学科3年中澤涼介さん



第4期生壮行会の様子

**本学で熊本地震の被災者への
募金活動が実施されました**

4月19日(木)から28日(木)までの平日の8日間、本学1号館前広場において、学生による熊本地震の被災者への募金活動が実施されました。熊本県出身で社会学科4年生の木村翔一さんの呼びかけにより、九州や東北出身の学生を中心に約30名が集まり、募金活動が始まりました。また、集まった募金は、日本赤十字社熊本県支部に振り込まれました。



募金活動の様子

文大だより

第47回 つる子どもまつり開催

5月15日（日）、都留文科大学を会場として第47回つる子どもまつりが開催されました。

「子どもたちに地域の中で健やかな成長を遂げてほしい」という想いのもと、午前9時の開会式から3時50分の閉会式までの間、ブース毎に工作や演劇、音楽の演奏などのレクリエーションが行われる「くに企画」や、来場者全員参加の「みんなの広場」などの企画が実施され、訪れる人たちの笑顔がはじけました。

当日は天候にも恵まれ、元気に笑いながら走る子どもたちの楽しそうなこえが、快晴の都留の空の下に響き渡りました。

会場の様子▶



◀くに企画の様子

都留市ふれあい集会
(平成28年4月28日)

平成28年4月28日、地域交流研究センターのリニューアルオープンに合わせて4号館1階で、都留文科大学の学生を対象とした「都留市ふれあい集会」を開催しました。

この集会は、市長が直接地域の方々と対話し、意見を伺うことで目指すべき将来像「ひと集い学びあふれる生涯きらめきのまちつる」を実現させることを目的として実施されています。

市長からは「都留市版 CCRC 事業」や、高齢者がはつらつと元気に暮らせるまちづくりについてなど、様々な政策に対していまどのように取り組んでいるか、お話がありました。

質疑応答の場面では、学生から「通勤しやすい街として居住者増加を狙ったらどうか」、「観光客の増加にもつながるのでぜひひりニアの駅を誘致してほしい」、「人間だけでなく動物も住みやすいように自然に配慮したまちづくりをしてほしい」、など多くの意見が出されました。



市長のお話の様子



閉会後の記念撮影

文大だより

地域交流研究センターとCOC推進機構の移転について

本年度より、地域交流研究センターとCOC推進機構は4号館1階に移転、およそ1か月のプレオープン期間を経て、平成28年4月28日（木）より正式にオープンしました。

ここには本センター事務局のほか、地域連携の要であるCOC推進機構や、学生が主体的に制作する地域をテーマとした冊子「フィールド・ノート」編集部、地域交流研究センターの事業に関わる展示コーナー、大学関係者と地域の方々がふれあうための交流スペースがあります。

本センターは、本学が地域と連携・協力し、教育・研究・地域貢献活動を進めるための拠点です。この移転には「教員と学生が、地域に関わりながら主体的かつ協働的に行う活動について発信すること」、「本センターがCOC推進機構とより密接に連携すること」、「地域の方々が気軽に訪れられるようにすること」、といったねらいがあります。

これまで、本センターの活動は多くの方々から高く評価されてきました。その一方、地域の方から見て「場所がわかりづらい」、「大学スタッフや学生とふれあうスペースがない」という問題もありました。そのほか「建物の構造上おこる騒音」などの課題もあり、これらの解決を目指し、移転先を検討した結果、旧図書館の書庫であった4号館1階に移転することとなりました。

しかし、ここは旧図書館の書庫であったため、可動式大型書架が部屋いっぱいであり、入り口や窓も小さく、人が居るための構造にはなっていませんでした。

そこで、昨年度後期に不要な設備を撤去し、窓を拡張、天井にLED照明を設置、新たな入り口を設けるなどの大工事を行って、明るく開放的でエコな空間に再生しました。また、情報センターや国際交際交流センター、保健センター、キャリアサポートセンターと同じ建物であり学生にもわかりやすく、1階にあるため地域の方々も訪れやすくなったと思います。

開館時間は月曜から金曜日の9時～11時30分及び12時30分～17時です。（土・日・祝休業）どうぞ、お気軽に足をお運びください。

併設されている展示スペースでは、昨年2月2日（火）にCOC推進機構主催「第1回郡内研究会」を開催、オープン初日の4月28日（木）には「都留市長とのふれあい集会」を開催しました。現在は「フィールド・ミュージアム」にかんする展示を行っています。今後も適時、展示を更新して行く予定です、どうぞご高覧ください。

このように、地域交流研究センターは本学の地域に関する教育・研究・地域貢献活動を、更に充実させることを目指し生まれ変わりました。大学と地域をつなぐ、よりよい交流の場となれば幸いです。



フィールドノート編集部



新地域交流研究センター内展示スペース

文大だより

平成28年度 オープンキャンパス情報

・夏季オープンキャンパス

平成28年7月16日(土)、17日(日)
午前9時～午後3時

【主な内容】 ○学科別相談会○卒業後の進路と就職状況説明会○学科別特別講義○進学相談会○留学制度相談会○学生生活相談会○学生によるキャンパスツアー○学食体験○学生による個別相談所○体育会、文化会等の活動報告



学科別個別相談会の様子

・秋季オープンキャンパス

平成28年10月10日(月・祝)～14日(金) ※12日(水)を除く
午前9時10分～午後4時20分

【主な内容】 ○公開授業体験○キャンパスツアー○進学相談会○学食体験



大学概要説明会の様子

申込方法 本学 HP もしくは FAX により申し込みください。

HP : <http://www.tsuru.ac.jp/>

FAX : 0554 - 43 - 4347

問合せ先 都留文科大学 経営企画課 企画広報担当

TEL : 0554 - 43 - 4341 (内線 242)

フィールド・ミュージアム通信

身近な野生動物の魅力を紹介する展示を始めました

フィールド・ミュージアム部門では、4号館1階への移転を機に室内での展示を始めました。今回のテーマは、「ムリネモの森へようこそ」です。キャンパス周辺に生息する哺乳類の生活の痕跡や剥製などの標本の一部を写真とともに展示しました。

「ムリネモ」とはムササビ、リス、ネズミ、モグラの頭文字からつくっ

た新しい言葉です。フィールド・ミュージアムでは、わたしたちよりもはるかに長いあいだ森に暮らしているこうした動物たちの知恵に学ぶとしてきました。

今回はそのような探究の成果として、観察が難しい哺乳類と出会うための方法や都留のフィールドで誕生した本も紹介します。展示コーナーの標本のほとんどはキャンパス周辺で集めたもので、じかに触れて確かめることができます。

なお、展示製作には『フィールド・ノート』の編集をしている学生が参加しました。ぜひ一度ご覧ください(開館時間は、平日の9時～11時30分、12時30分～17時です)。



(地域交流研究センター
フィールド・ミュージアム部門)



文大だより

同窓生との模擬面接体験会

5月7日（土）に模擬面接体験会が開催されました。会には教員志望の学生約120名が参加し、全国各地より参集した33名の本学卒業生が講師となり、採用試験対策として様々なご指導をいただきました。

第一部は代表学生が集団面接・集団討論・模擬授業を行い、他の学生がその様子を見学する形式で行われました。各回において、面接官役である講師の方よりご講評をいただき、きめ細かい実践的な指導が行われました。

第二部では学生は受験地域ごとに教室に分かれ、各地域の試験に即したアドバイスや、集団面接・討論等の実践指導を受けました。参加した学生は皆熱心に取り組み、採用試験に向け良い刺激を得たようです。

最後に、ご協力いただきました同窓会の皆様には、厚く御礼申し上げます。



第一部の様子



第二部の様子

市民公開講座 佐野夢加かけっこ教室

平成28年6月4日（土）と11日（土）の2日間、都留市内の小学生を対象とした市民公開講座「佐野夢加かけっこ教室」を本学の体育館と市民総合体育館で開催しました。ロンドン五輪陸上競技日本代表の佐野夢加特任講師と本学卒業生の松山文奈さん、陸上部の学生たちの指導のもと、約60名の子どもたちが、かけっこが速くなるためのプログラムに取り組みました。当日実施したプログラムやその様子は、地域交流研究センターブログで紹介していますので、ぜひご覧ください。



かけっこ教室の様子



佐野夢加特任講師

文大だより

国際教育学科開設記念公開講座が開催されました

5月14日(土)、6月18日(土)に東京、6月4日(土)に京都、6月5日(日)に名古屋、6月9日(木)に都留と4都市において、国際教育学科開設記念公開講座「『未来の先生』を目指す君へ 日本を変える国際バカロレア教育を知ろう!」が開催されました。国際バカロレア(IB)は、世界共通の大学入学資格として、約140ヶ国、3700校、100万人以上の学生が学んでいる教育プログラムで、日本でも、2020年までに200校以上の高校へ導入する目標があります。このIB教育プログラムはこれまでの日本の教育とは大きく異なり、知識の詰め込み教育ではなく、探究型の授業、課題解決型の授業を行います。修了後は世界中の多くの大学の入学資格としても認められており、グローバル人材の育成にも繋がっています。都留文科大学では、2017年4月「国際教育学科(設置構想中)」を開設し、国際バカロレアの教員養成課程を設置します。これは、日本の大学(学部課程)では初めての挑戦です。

講座では、本学の福田学長による「『未来の先生』になるために大学でどんなことを勉強したらよいでしょうか。」とのテーマでの講演や、本学の大迫弘和特任教授がファシリテーターを務めたワークショップ「『未来の先生』の授業はこんな風です」が実施されました。当日は、高校生から社会人の方まで、幅広い年齢層の方々が参加し、国際バカロレア教育に関する理解を深めておりました。



公開講座の様子

人 事 異 動

平成 28 年度人事異動等について

役員就任

事務局長 谷内治彦

採 用

初等教育学科教授

初等教育学科教授

国文学科准教授

国文学科講師

社会学科講師

国文学科特任教授

情報センター特任教授

キャリア支援センター特任教授

キャリア支援センター特任教授

保健センター特任教授

キャリア支援センター特任講師

学生課教務担当主任

退 職

麻場一徳(初等教育学科教授)

横田 力(社会学科教授)

渡邊豊博(社会学科教授)

杉本光司(情報センター教授)

松土 清(英文学科特任教授)

黒崎茂樹(情報センター特任准教授)

昇 任

加藤敦子(国文学科教授)

奥脇奈津美(英文学科教授)

上原明子(初等教育学科准教授)

菊池有希(国文学科准教授)

水口 潔

中川佳子

野中 潤

田口麻奈

富永貴公

多和田葉子

杉本光司

渡辺豊博

松土 清

小石澤学

佐野夢加

上野 剛

転 入

総務課課長

総務課副主幹

経営企画課副主幹

総務課主査

総務課主事

学生課主事

総務課

転 出

産業建設部長

高部 剛(理事(事務局長(兼)総合企画室室長))

市民課主幹(兼)課長補佐

市立病院事務局副主幹

建設課副主幹

生涯学習課主査

会計課主任

配 置 換

総務課主幹(兼)課長補佐

学生課主幹(兼)課長補佐

昇 任

経営企画課副主幹

学生課主査

総務課主幹

総務課副主幹

総務課主査

総務課主任

総務課主任

学生課主任

矢嶋 亘(財務課主幹(兼)課長補佐)

鈴木 卓(建設課副主幹)

横瀬晴紀(建設課主査)

関戸章雄(企画課主査)

菊永京子(企画課主事・採用)

中村工美(企画課主事・採用)

宇佐美千里(企画課主幹)

髯櫛美咲(総務課副主幹)

程原誠二(総務課副主幹)

相川 聖(総務課主査)

奈良健三(経営企画課副主査)

渡邊理恵(学生課主任)

小林泰憲(学生課主幹(兼)課長補佐)

藤江耕正(総務課主幹(兼)課長補佐)

高山みどり(経営企画課主査)

小林 誠(学生課副主査)

小林啓子(総務課副主幹)

長坂美和(総務課主査)

深澤知恵美(総務課副主査)

井上邦男(総務課主事)

松尾陽子(総務課主事)

佐藤絵美(学生課主事)

お詫び
と訂正

○都留文科大学報 130 号に掲載した「卒業論文・研究論文・修士論文一覧」に誤りがございましたので、訂正するとともにお詫び申し上げます。

英文学科

Hamish Gillies ゼミ

(正) 古保文也

(誤) 久保文也

比較文化学科

分田順子 ゼミ

(正) 内田光里

(誤) 内田 光

編集後記

「週刊誌報道」のパイ
オニア・「トップ屋」

志村三代子

ベッキーの不倫騒動、ショーン・マクアードル川上の経歴詐称、舩添東京都知事の公金横領疑惑などのスクープ記事を連発した『週刊文春』の快進撃が止まらない。そもそも『週刊文春』は、文藝春秋社が1959年に刊行した週刊誌だが、『週刊朝日』、『サンデー毎日』などの新聞社系出版社はもとより、出版社系週刊誌の草分けである『週刊新潮』よりも3年ほど遅れて創刊された。だが、後続の『週刊文春』だからこそ、他誌に先がけ、フリーのライターによる無署名記事を掲載することで、現在のようなスキャンダル記事を基盤とした「週刊誌報道」を確立した。その立役者が、「トップ屋」こと梶山季之である。

「トップ屋」とは、雑誌の巻頭を飾る記事を任される書き手のことを指すが、梶山は、1958年11月号の『週刊明星』で「皇太子の恋（話題小説）」を執筆し、皇太子妃候補をスクープした後、創刊間もない『週刊文春』で、数人の部下を育成しグループ取材方式を確立、グループは「梶山グループ」「梶山軍団」等の異名をとった。その後、社会推理小説『黒の試走車』（1962年2月・光文社）を発表、文壇にデビューし、一躍流行作家となる。『黒の試走車』は、自動車会社の熾烈な競争を克明に描き、「産業スパイ」という新しい言葉を生み出したことから、梶山のトップ屋精神が見事に生きた小説といえよう。さらに本作は、人気スターとして地歩を固めつつあった田宮二郎の主演で映画化、その後「黒シリーズ」としてシリーズ化され、わずか2年のあいだに11作品が公開された。シリーズの最期を飾ったのも梶山原作の『黒の超特急』である。梶山の『夢の超特急』は、同年10月に東京オリンピックを控え、オリンピック開催と同時に鳴り物入りで開業した新幹線をめぐる汚職を取りあげた、まさにタイムリーな暴露小説でもあったが、映画化の際には、舞台が横浜から山陰地方に変更された。1975年、梶山季之は、長編小説『積乱雲』の取材中に香港で吐血、急逝する。2020年の東京オリンピックに向けて、JOCによる裏金疑惑が俄かに取りざたされているが、現在、元祖「トップ屋」梶山ならば、英国・ガーディアン紙が最初に告発した国際的なスクープをどのように捉えただろうか。



『黒の試走車』ポスター



志村三代子 ほか 著
2016年3月発行
森話社 3,400円 + 税

◇しむら みよこ
比較文化学科 准教授

映画と文学 交響する想像力



大迫弘和 著
2016年2月発行
森話社 900円 + 税

◇おおさこ ひろかず
国際教育学科準備室 特任教授

「覚える君」から「考える君」へ
アクティブ・ラーニングとしての
国際バカロレア

本
ぶんだい堂